A background image showing three business professionals in a meeting. A woman on the left is speaking, a man in the center is listening and holding a pen, and a woman on the right is also listening. They are all dressed in business attire.

留学生の就職活動と 入社後の実態に関する定量調査 結果報告書

パーソル総合研究所 × CAMP

※CAMPとは、パーソルキャリア株式会社が運営する若者向けのキャリア教育支援活動です。

2020.6



パーソル 総合研究所

サマリー	調査概要と結果サマリー
調査結果①	留学生の学生生活 -日本人学生との比較-
調査結果②	留学生の就職活動実態 -日本人学生との比較-
調査結果③	留学生の入社後の実態
Appendix	回答者属性 等

※報告書内の「日本人学生」数値は2019年2月実施のパーソル総合研究所×CAMP「留学生の就職活動と入社後の実態に関する定量調査」から引用している。また、分析対象者の条件を揃えるために「大学1-4年生、修士1-2年生、新卒入社社会人1-3年目」にベースを絞り込み数値を比較している。（部分的にさらに対象を限定して比較している個所もある）

調査概要と結果サマリー

パーソル総合研究所×CAMP共同調査
留学生の就職活動と入社後の実態に関する定量調査

調査名称	パーソル総合研究所×CAMP「留学生の就職活動と入社後の実態に関する定量調査」								
調査内容	外国人留学生、元外国人留学生の就職活動に関する意識・実態を把握し、就職後の定着・活躍に関わる就職活動要因や入社後の企業のサポート体制を明らかにする。								
調査手法	インターネット調査モニターを用いたインターネット定量調査								
調査時期	2020年2月14日-3月2日								
調査対象者	<p><全体共通>居住地日本全国、外国籍 ※国籍の比率は実態に即して割付</p> <p>■学生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四年制大学1-4年生、修士1-2年生、(博士課程は除外) ・卒業後、日本での就業意向がある者 <p>■社会人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の大学を卒業しており、日本で就職活動を行った人 かつ 現在日本で働いている人 (内外資不問) ・初職 正社員 5年以内 ※就職活動をして正社員で就職した者 <p><割付></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>外国人留学生 大学1-4・修士1-2年</th> <th>社会人(元留学生) 正社員(初職)5年以内</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th>割付</th> <td>300</td> <td>200</td> <td>500</td> </tr> </tbody> </table>		外国人留学生 大学1-4・修士1-2年	社会人(元留学生) 正社員(初職)5年以内	合計	割付	300	200	500
	外国人留学生 大学1-4・修士1-2年	社会人(元留学生) 正社員(初職)5年以内	合計						
割付	300	200	500						
実施主体	株式会社 パーソル総合研究所 / パーソルキャリア株式会社・CAMP (Career Activate Management Program)								

引用について

本調査を引用いただく際は出所を明示してください。出所の記載例：パーソル総合研究所×CAMP「留学生の就職活動と入社後の実態に関する定量調査」

※CAMPとは、パーソルキャリア株式会社が運営する若年層向けキャリア教育支援活動です。

1.

■ 留学生の大学生生活は「勉強」が第一。キャリア意識は「独立志向」が日本人学生の2.5倍。将来を見据えたビジネス活動に時間を割く者も多く（41.6%）、日本人学生と大きく異なる学生生活の送り方やキャリア観の傾向が明らかになった。

- ▶ 学生生活において最も重視していることを尋ねると、クラブや趣味を重視する者が多い日本人学生と比較して、勉強 30.4%（日本人学生 24.4%）、資格取得 16.0%（日本人学生 5.1%）に打ち込んでいる者が多い。
- ▶ ビジネス活動 41.6%（日本人学生 12.6%）、新聞を読む 43.3%（日本人学生 19.9%）に時間をかけている者も多く、学生生活中に将来に向けた準備をおこなっている様子が窺える。
- ▶ キャリア意識をみると、独立志向の高さは日本人学生の2.5倍であった。（「将来独立したい 58.9%（日本人学生 23.3%）」）

2.

■ 勉強最重視の留学生には、長期化しがちな日本の就職活動は負担に。

- ▶ 就活で苦勞していることは「就職活動を始める時期が早く、学業と両立しなければならない 65.9%」「就職活動の期間が長いこと 65.4%」と、長期化する就職活動に負担を感じている様子。

留学生

日本人学生

キャリア意識

やりがい・成長志向、
独立志向、ステータス志向が強い。

安定志向が留学生よりも強め。

学生生活

勉強や資格取得に最も重点を置き、
新聞を読む、ビジネス活動を行うことに時間
をかける者が多数。

クラブ、趣味などプライベートに最も重点を置く
者が多い傾向があり、勉強やビジネス活動に時間をかける
ものは留学生より少なめ。

就職活動

意識

やりたいことが具体的にあり、将来的には独立も
視野に入れる 独立心が高い層が多い。

就職先は「安定して長く働けること」
「仕事とプライベートが両立できること」
を重視する傾向。

行動

「やりたいこと」を軸に的を
絞り込んだ情報収集を実施。
短期間集中で効率的な就職活動。

的は絞らず、情報収集は広く浅く。
時間がかかっても納得のいく就職活動を。

3.

■ 留学生は入社後「労働時間の長さ」「サービス残業の多さ」「休暇のとりにくさ」などの就業環境や仕事の裁量や権限が小さいことなどに不満を感じている。

- ▶ 留学生の会社への満足度は「内定承諾後 96.4%」▶「現在 70.3%」と時間の経過とともに徐々に低下。
- ▶ 会社への不満は「労働時間が長い 51.5%」「サービス残業が多い 42.5%」「休暇がとりにくい 38.5%」などの働きやすさに対する不満が多く、次いで「仕事の裁量や権限が小さい 31.0%」も多い。
- ▶ 就職活動中は「仕事とプライベートの両立」の重視度が日本人学生の0.57倍と低く、入社後に思わぬイメージギャップを感じていることが推察される。

■ 特に、「過重労働」と「意思決定の遅さ」「日本語重視」の働き方が元留学生の定着を妨げている。

- ▶ 継続就業意向を**低下させる**就業環境要因：残業が多い 48.0%、休暇が取りにくい 39.5%。
- ▶ 転職意向を**上昇させる**就業環境要因：ビジネスの意思決定が遅い 36.5%、日本語が話せないと評価されない 21.5%。

4. 入社前に職業適性・日本文化への理解を高めることが、入社後の定着やパフォーマンス向上に正の影響を与える。

- ▶入社前の職業適性の理解を高めるには、学生生活の中で、勉強だけではなく、文化理解を促進する多様な経験が有効であり、日本文化の理解の促進には学生時代の「人との交流」「社会勉強」などが有効であることが確認された（重回帰分析）。
- ▶「入社前の理解」は日本人学生においてもリアリティ・ショックを媒介し、入社後の定着やパフォーマンスに影響を与えることが別調査※の分析結果から分かっている。※パーソル総合研究所×CAMP共同調査「就職活動と入社後の実態に関する定量調査」

5. 留学生の6割がメール、電話、面接のマナーに苦勞。また、あいまいな採用基準にも違和感や理解しがたさを感じている者が多数。

- ▶新卒採用の採用基準において「具体的な技能・スキルが求められないこと 56.2%」「資格が重視されない 56.0%」に違和感、理解しがたさを感じている。
- 留学生の志望度が高い企業は、「留学生向けの採用活動」を実施。
 - ▶留学生の志望度が高い企業は「留学生へのキャリア支援・サポートの情報提供 33.1%」など、留学生向けの情報提供を行っている。
 - ▶さらに、日本企業の「明文化されていないルールが多い 19.0%」「ビジネスの意思決定が遅い 17.3%」「昇進・昇格が遅い 17.3%」などのイメージは、就職活動中の留学生の日本での就業意向も低下させていることがわかった（重回帰分析）。

留学生への提言

現状

- 留学生は勉強や研究に打ち込む学生が日本人学生と比較して多い。一方で、勉強や研究のみに打ち込んでいる学生は、社会人になる準備が進んでいない傾向がみられた。

対策

- 就活の為の学びではなく、自分のはたらく未来の為に自然に情報収集できる習慣が重要。
- ・慣れない日本の就活で、就活マニュアルに頼る傾向が日本人学生よりも強い。「内定獲得のため」の就職対策で就活マナーや筆記試験対策のみに終始してしまうと、入社後に苦労している。
- ・入社後に組織に定着し、活躍するためには入社前に職業適性や日本文化への理解を高めることが重要。
- ・留学生仲間や学内だけでなく、一般の日本人学生と接する機会を積極的に作り、準備を進めるべき。
入社前に職業適性の理解を高めるためには、「社会勉強（ビジネス活動など）」「人との交流」「人と接するアルバイト経験」などが有効である。

企業への提言

採用

- 留学生は日本人学生と比べても、キャリアへの意識、成長志向、ビジネスへの学び意識などが高く、潜在的な活躍人材が多い。
- 企業が優秀な留学生を獲得するためにするためには、採用活動の「脱形式化」が必須。
「マナー」や「ポテンシャル」を重視した採用から、より具体的な能力や技能を重視した採用へ。
- 日本人学生と同様の情報提供では、留学生をひきつけられていない。
留学生向けの特別な情報提供や機会創出など、日本人学生とは異なる情報発信を。

定着

- 留学生が定着しないという声はしばしば聞かれるが、日本で長く働きたい気持ちは強い。
企業における組織の意思決定・業務効率性のスピード感の無さが離職・転職に直結しており、組織マネジメントのあり方から見直す必要がある。
- 留学生の定着に必要な言語サポートや制度整備などは現状不十分。
日本人学生と同じ画一的な対応ではなく、留学生向けのサポートを充実させることが求められる。

調査結果①

留学生の学生生活 -留学生と日本人学生の比較-

パーソル総合研究所
留学生の就職活動と入社後の実態に関する定量調査

学生生活で、留学生は、日本人学生と比べて「勉強」や「ビジネス活動」に時間をかけている。
特に、約7割が授業と関係のない勉強も行っており、約4割が起業などのビジネス活動を行っている。

(%)

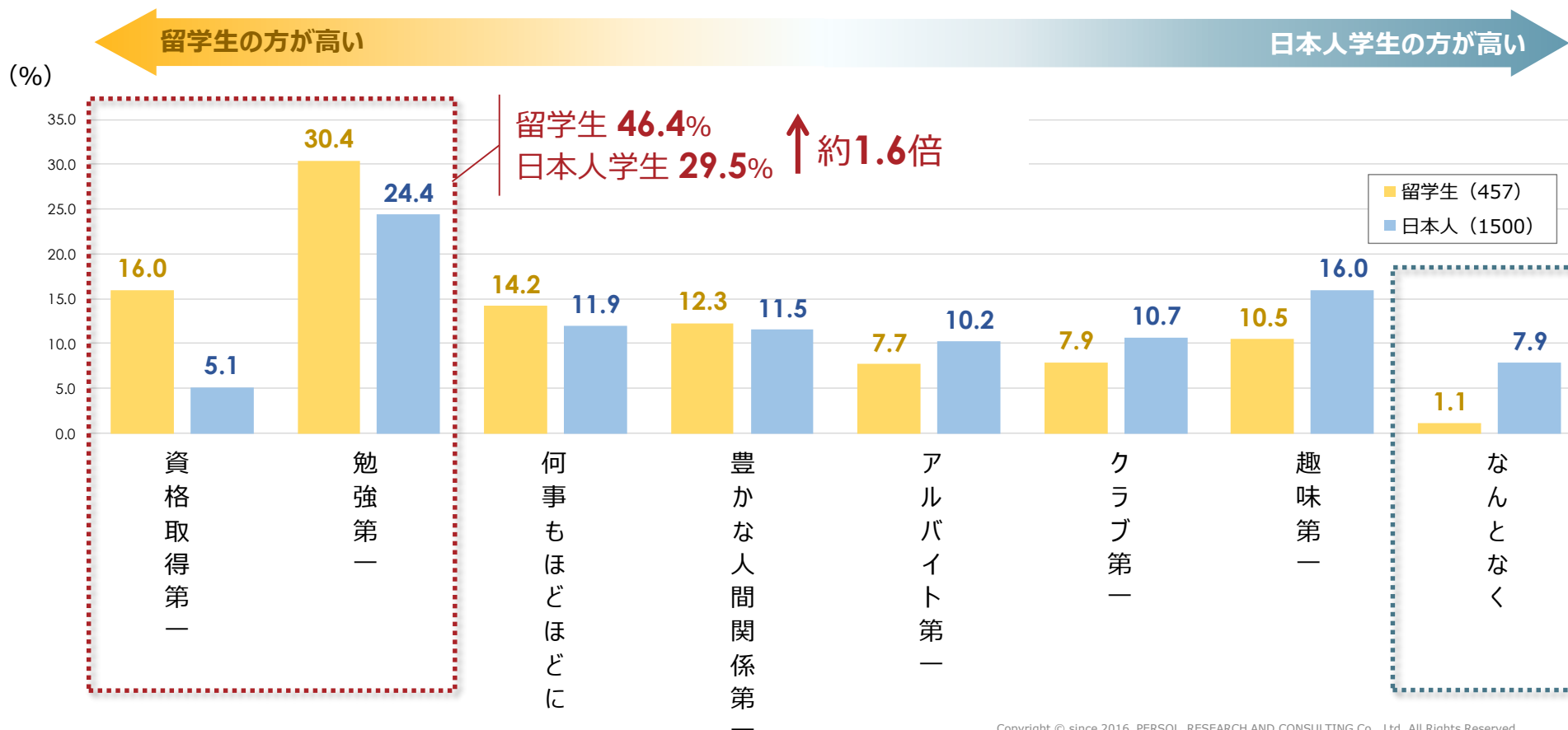
順位	学生生活で時間をかけていた活動	留学生 (457)	日本人 (1500)	GAP
1	起業など、ビジネス活動を行う	41.6	12.6	+29.0
2	授業に関する勉強（予習や復習、宿題・課題など）	81.2	56.3	+24.9
3	授業とは関係のない勉強を自主的にする	66.7	42.8	+23.9
4	新聞を読む	43.3	19.9	+23.4
5	コンパや懇親会などに参加する	39.6	24.8	+14.8
6	勉強のための本（新書や専門書など）を読む	55.4	43.1	+12.3
7	大学で授業や実験に参加する	86.9	76.7	+10.2
8	異性の友人といっしょに過ごす	49.7	43.3	+6.4
9	ゲーム（ゲーム機・コンピューターゲーム・オンラインゲーム）をする	45.1	39.9	+5.2
10	同性の友人といっしょに過ごす	66.7	64.3	+2.4
11	インターネットサーフィンをする	67.8	65.6	+2.2
12	マンガや雑誌を読む	40.5	41.7	-1.2
13	娯楽のための本（小説・一般書など、マンガや雑誌を除く）を読む	40.0	42.8	-2.8
14	クラブ・サークル活動をする	42.9	49.1	-6.2
15	アルバイト	61.5	68.3	-6.8
16	テレビをみる	41.6	52.3	-10.7
17	外国人の友人といっしょに過ごす	57.8		
18	日本人の友人といっしょに過ごす	55.1		

※留学生と日本人学生の差が大きい順にランキング化。

※「非常に時間をかけている～全く時間をかけていない」7段階聴取。数値はTOP3選択率

留学生は、日本人学生と比べて「資格取得」や「勉強」に重点を置く者が約半数と多い。
「なんとなく」過ごす者は1%と非常に少なく、真面目な学生が多いことが窺える。

学生時代に最も重点を置いていたこと



調査結果②

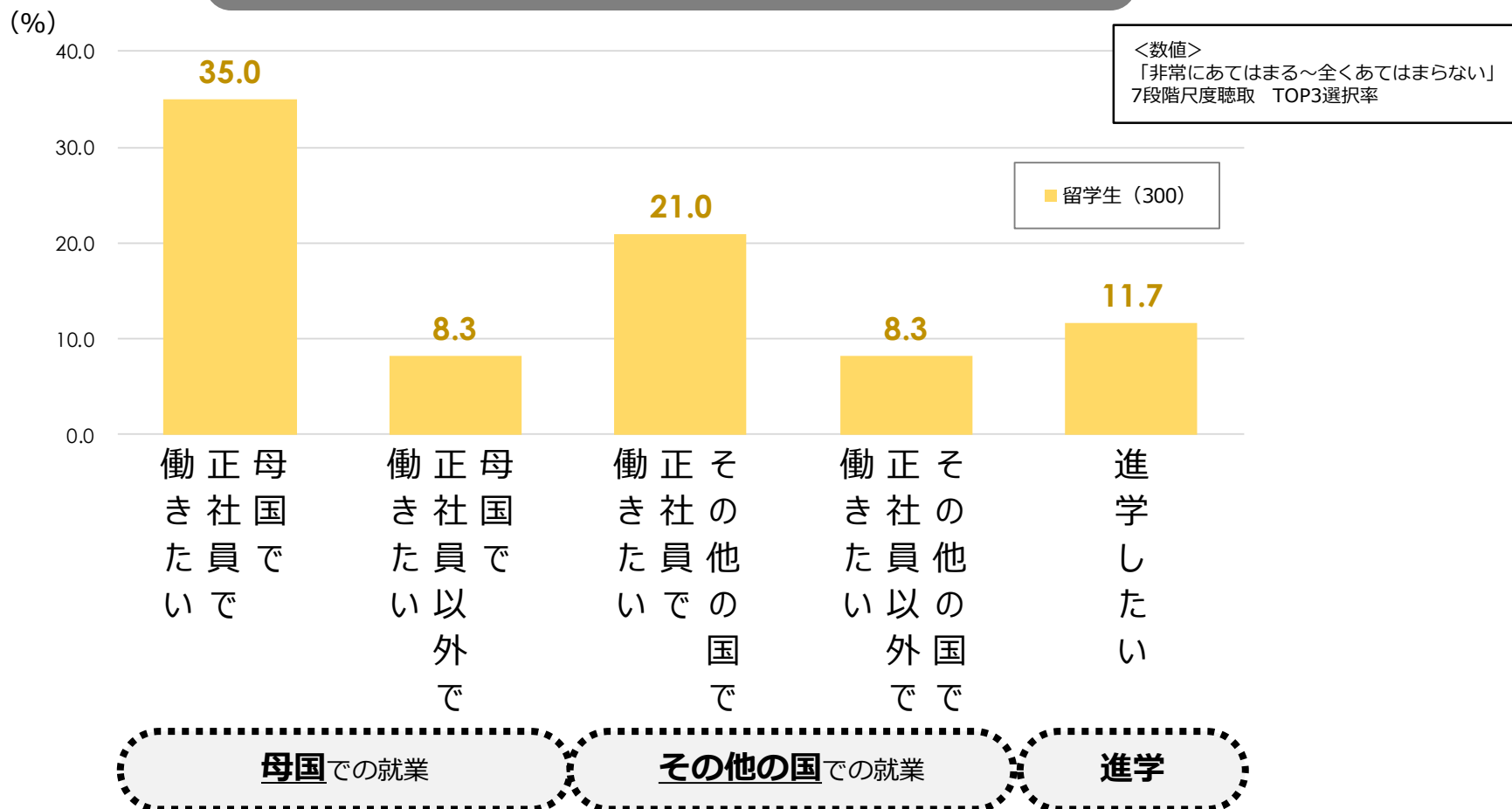
留学生の就職活動実態

-留学生と日本人学生の比較-

パーソル総合研究所
留学生の就職活動と入社後の実態に関する定量調査

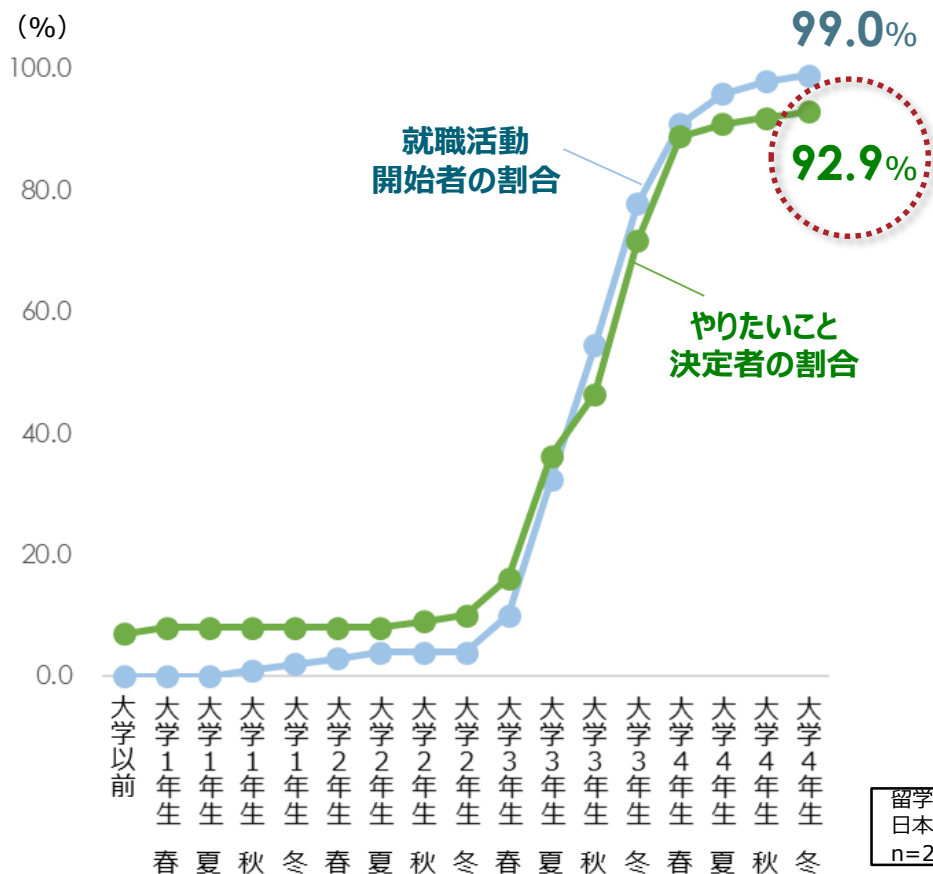
日本で正社員での就業意向がある留学生の2～3割が、母国やその他の国での正社員就業も視野に入れている。

卒業後の日本以外の進路希望

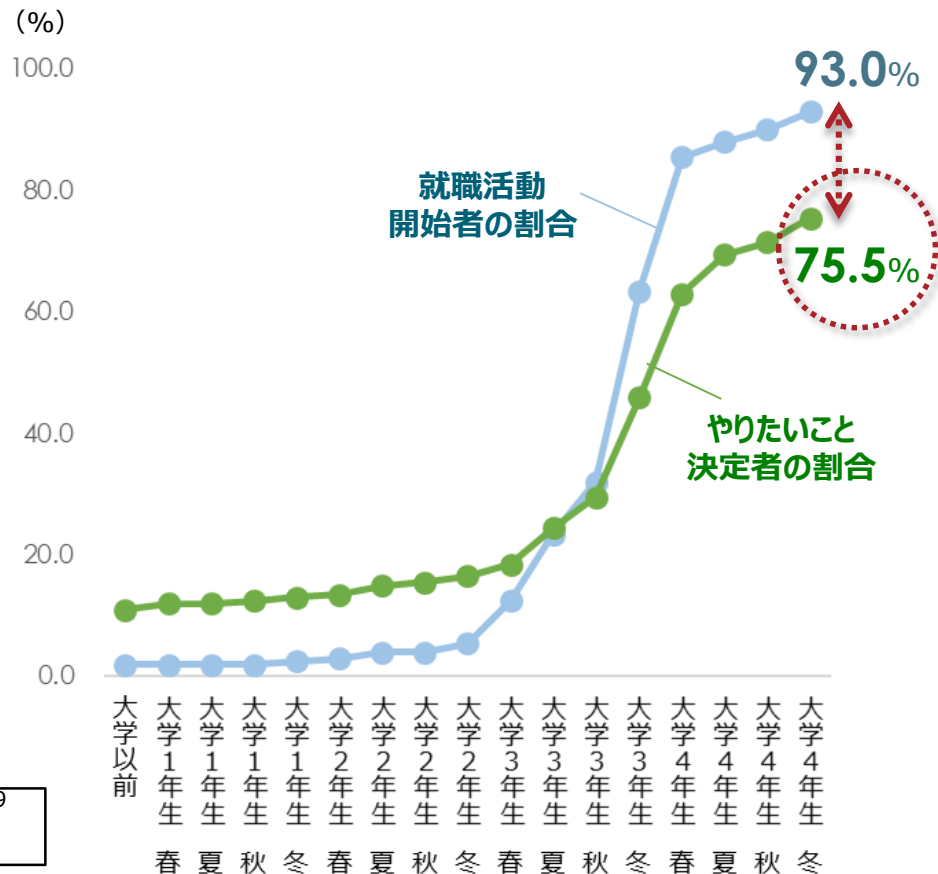


日本人学生は、やりたいことが決定しないまま就職活動を終える者が一定数いるが、
留学生は、ほとんどが卒業時にはやりたいことが決まっている。

留学生大学4年生（2020年2月調査時点）



日本人学生大学4年生（2019年2月調査時点）



留学生は、日本人学生と比べて「宿泊・飲食サービス業」「教育・学習支援業」「卸売・小売業」の希望者が多い。
「情報通信業」は日本人学生同様多く、最多。

(%)

順位	希望業種	留学生 (257)	日本人 (479)	GAP
1	宿泊業、飲食サービス業	14.8	4.6	+10.2
2	教育、学習支援業	17.5	8.6	+8.9
3	卸売業、小売業	17.5	10.0	+7.5
4	不動産業、物品賃貸業	8.9	5.4	+3.5
5	情報通信業	23.7	20.5	+3.2
6	金融業、保険業	16.3	13.8	+2.5
7	医療、福祉	11.7	9.4	+2.3
8	学術研究、専門・技術サービス業	9.7	7.5	+2.2
9	農業、林業	6.6	5.2	+1.4
10	生活関連サービス業、娯楽業	9.7	8.8	+0.9
11	建設業	6.6	5.8	+0.8
12	運輸業、郵便業	7.8	7.3	+0.5
13	鉱業、採石業、砂利採取業	1.9	2.7	-0.8
14	漁業	0.8	2.1	-1.3
15	複合サービス事業（郵便局、協同組合など）	2.3	3.8	-1.5
16	電気・ガス・熱供給・水道業	4.7	7.9	-3.2
17	製造業	19.5	23.2	-3.7
18	サービス業	10.1	14.2	-4.1
19	国家公務、地方公務	1.9	11.7	-9.8

※留学生と日本人学生の差が
大きい順にランキング化。
※複数回答形式。

留学生は、日本人学生と比較して「教育関連」「WEBクリエイティブ」「IT系技術職」の希望者が多い。
一方、日本人学生に人気の「事務・アシスタント」「総務・人事」「企画・マーケティング」の希望者は少ない。

(%)

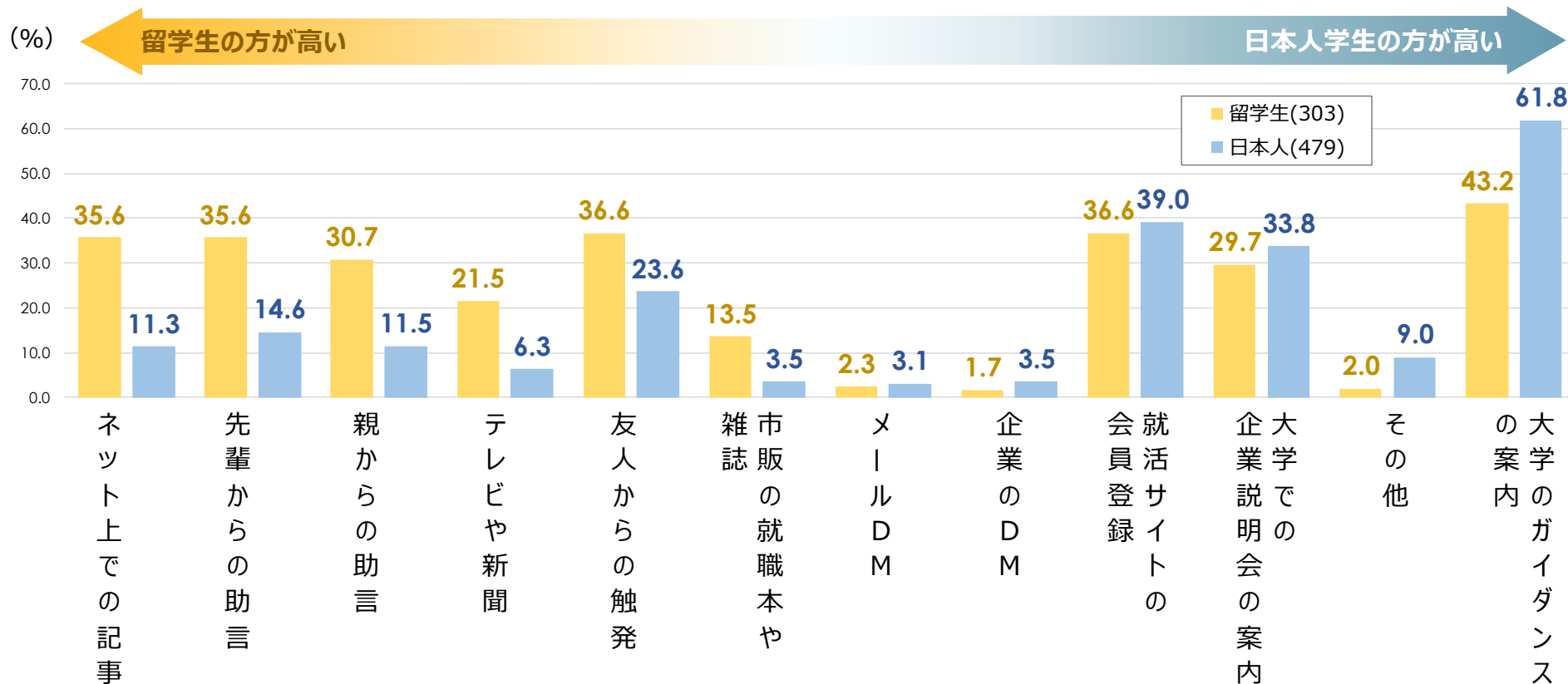
順位	希望職種	留学生 (257)	日本人 (479)	GAP
1	教育関連	13.2	4.8	+8.4
2	Webクリエイティブ	10.9	5.6	+5.3
3	IT系技術職	19.8	14.6	+5.2
4	製造（組立・加工）	11.7	6.7	+5.0
5	医療系専門職種	9.3	4.4	+4.9
6	農林水産職	6.6	1.7	+4.9
7	営業推進・営業企画	13.6	9.8	+3.8
8	幼稚園教諭・保育士	4.7	2.3	+2.4
9	【飲食】接客・サービス系職種	3.5	2.1	+1.4
10	配送・倉庫管理・物流	3.9	2.5	+1.4
11	顧客サービス・サポート	6.2	5.0	+1.2
12	軽作業（梱包・検品・仕分／搬出・搬入など）	2.7	1.7	+1.0
13	営業職	17.5	16.7	+0.8
14	商品開発・研究	17.5	16.9	+0.6
15	弁護士	1.2	0.6	+0.6
16	【飲食以外】接客・サービス系職種	3.5	3.1	+0.4
17	理美容師	1.2	0.8	+0.4

順位	希望職種	留学生 (257)	日本人 (479)	GAP
18	生産技術・生産管理・品質管理	13.6	13.4	+0.2
19	建築・土木系 技術職種	3.1	3.1	+0.0
20	警備・清掃・ビル管理	0.8	0.8	+0.0
21	その他専門職	1.6	2.1	-0.5
22	福祉系専門職（介護福祉士・ヘルパーなど）	2.3	3.1	-0.8
23	ドライバー	1.2	2.1	-0.9
24	販売職（販売店員、レジなど）	6.2	7.7	-1.5
25	資材・購買	3.9	5.6	-1.7
26	コンサルタント	3.5	5.2	-1.7
27	広報・宣伝	8.2	12.9	-4.7
28	受付・秘書	2.3	7.9	-5.6
29	経営・経営企画	9.7	16.3	-6.6
30	財務・会計・経理・法務	5.4	12.1	-6.7
31	企画・マーケティング	14.8	22.1	-7.3
32	総務・人事	6.6	19.2	-12.6
33	事務・アシスタント	4.3	21.7	-17.4
-	翻訳・通訳	5.4		

※留学生と日本人学生の差が大きい順にランキング化。
※複数回答形式。

留学生は、日本人学生と比べて「ネットやテレビ・新聞等」や、「人からの助言」をきっかけに就職活動を開始している。
一方で、「大学からの案内」はきっかけとなりづらい。

就職活動開始のきっかけ



※就活シーズンを揃えるため、留学生は大学2年～社会人1年目、日本人学生は大学1年～修士2年を対象に分析（以下同様）。
※複数回答形式。

就活中に活用した情報源を、留学生と日本人学生の差が大きい順にランキング化した。

留学生は日本人学生と比べて、「Webサイト」や「SNS」による情報収集が多く、「大学」や「合同説明会」が少ない。

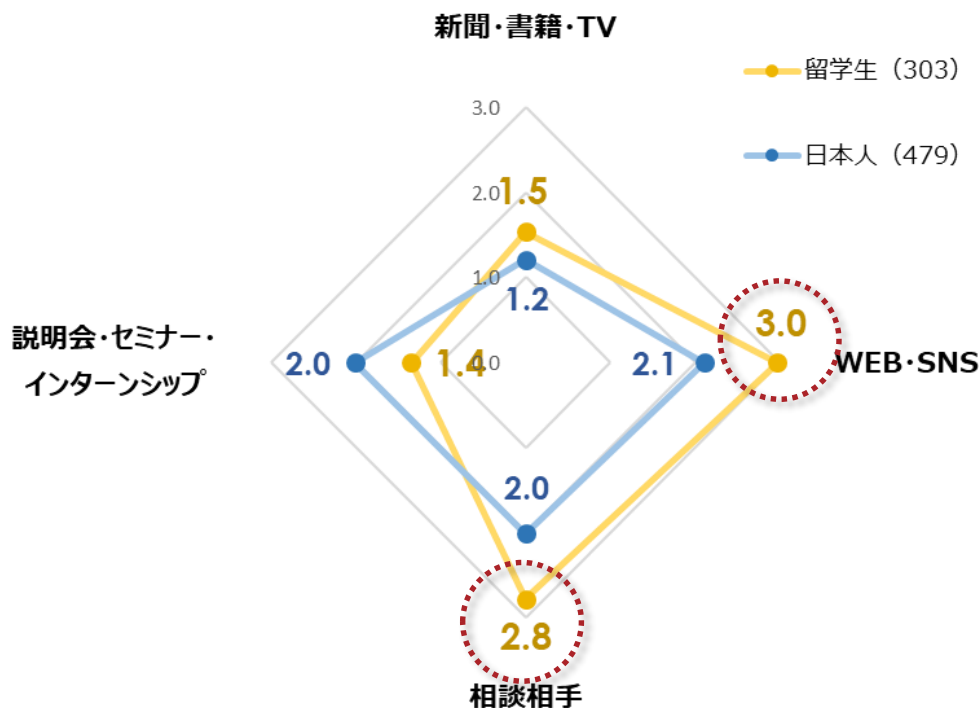
順位	就活中に活用した情報源	留学生 (303)	日本人 (479)	GAP	順位	就活中に活用した情報源	留学生 (303)	日本人 (479)	GAP
1	企業・口コミサイト以外のWebサイト	34.7	9.6	+25.1	23	一般ビジネス書籍	3.6	3.3	+0.3
2	企業のSNS公式アカウント	26.4	7.3	+19.1	24	入社1～4年目の友人・知人	15.2	15	+0.2
3	上記以外のSNS	23.1	5.8	+17.3	25	興味がある業界の企業ホームページ	20.5	20.7	-0.2
4	学校のキャリアセンター	37.6	24.4	+13.2	26	志望企業の入社5年目以上の社員	7.6	7.9	-0.3
5	業界新聞	16.2	3.3	+12.9	27	ゼミの教授	13.2	13.8	-0.6
6	就職活動を終えた友人・知人	38.3	26.5	+11.8	28	就職活動を終えたゼミや部活・サークルの先輩	23.4	24.2	-0.8
7	就職エージェント	22.8	12.1	+10.7	29	入社5年目以上のOB・OG	2.3	4.6	-2.3
8	業界別の雑誌	14.2	5.2	+9.0	30	志望企業の入社1～4年目の社員	8.6	11.5	-2.9
9	TV（ニュース）	19.1	10.6	+8.5	31	アルバイトなどで実際に働いたこと	3.0	6.5	-3.5
10	さまざまな業界の会社説明会	28.1	19.6	+8.5	32	日経新聞	12.5	16.1	-3.6
11	就活塾・就活予備校	11.2	3.3	+7.9	33	就活本・就職情報誌	29.4	34.7	-5.3
12	日経以外の全国展開している新聞	12.5	5.8	+6.7	34	就職活動中の友人・知人	10.6	16.7	-6.1
13	地方の新聞	10.2	4.4	+5.8	35	インターンシップ	21.8	28.6	-6.8
14	企業のオフィシャルサイト内の求人募集ページ	31.0	25.7	+5.3	36	業界説明会に参加した	3.0	10.4	-7.4
15	一般ビジネス雑誌	12.2	6.9	+5.3	37	会社四季報	14.2	22.8	-8.6
16	親の意向	33.3	28.4	+4.9	38	就活情報サイト（みんなの就活など）	28.4	38.6	-10.2
17	一般企業についての口コミサイト	26.7	22.8	+3.9	39	就職活動サイト（リクナビ、マイナビなど）	61.1	71.6	-10.5
18	興味のある業界の会社説明会	37.3	33.4	+3.9	40	就活セミナー	19.8	36.3	-16.5
19	入社1～4年目のOB・OG	10.9	8.8	+2.1	41	合同会社説明会	9.9	29.6	-19.7
20	TV番組	9.9	7.9	+2.0	42	学校の就活ガイダンス	15.8	44.1	-28.3
21	入社5年目以上の友人・知人	5.6	4.8	+0.8	-	留学生仲間	38.0		
22	さまざまな業界の企業ホームページ	9.2	8.6	+0.6	-	留学生専用の就職活動サイト	35.3		

※留学生と日本人学生の差が大きい順にランキング化。
※複数回答形式。

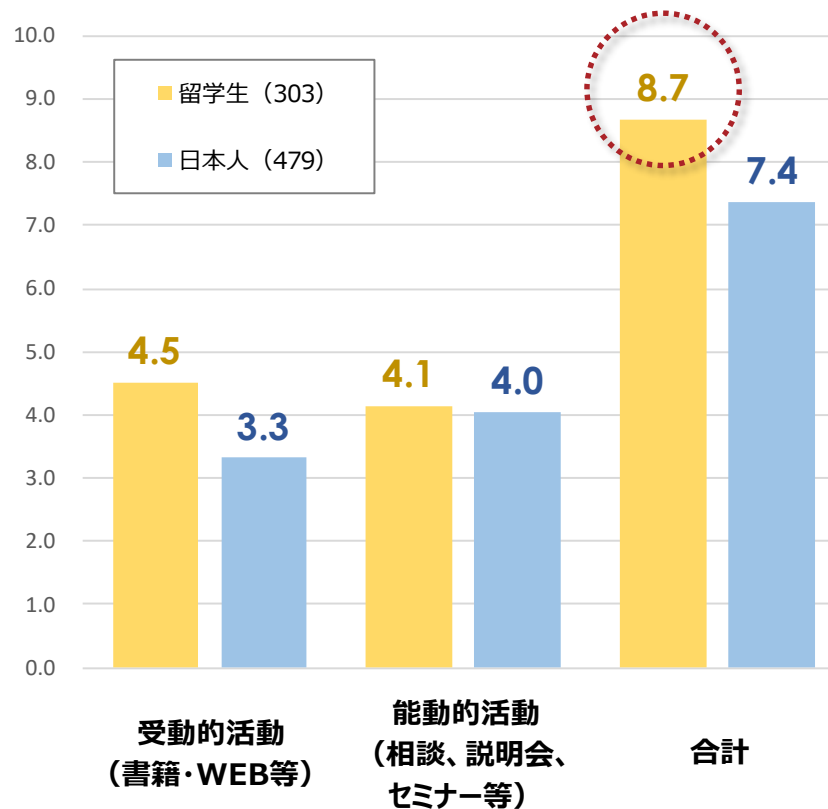
留学生は就職活動サイト以外も含めた「WEBやSNS」からの情報収集や、「誰かに相談する」行動を広く行っている。
一人当たりの情報源は約8.7種類と、日本人学生よりも多い。

就活中に活用した情報源 1人当たりの種類数

(種類数)



(種類数)

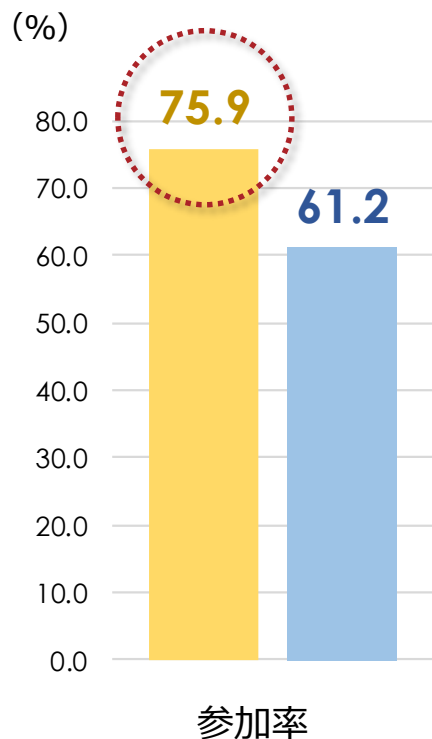


※留学生のみ聴取の2項目は除いてカウント

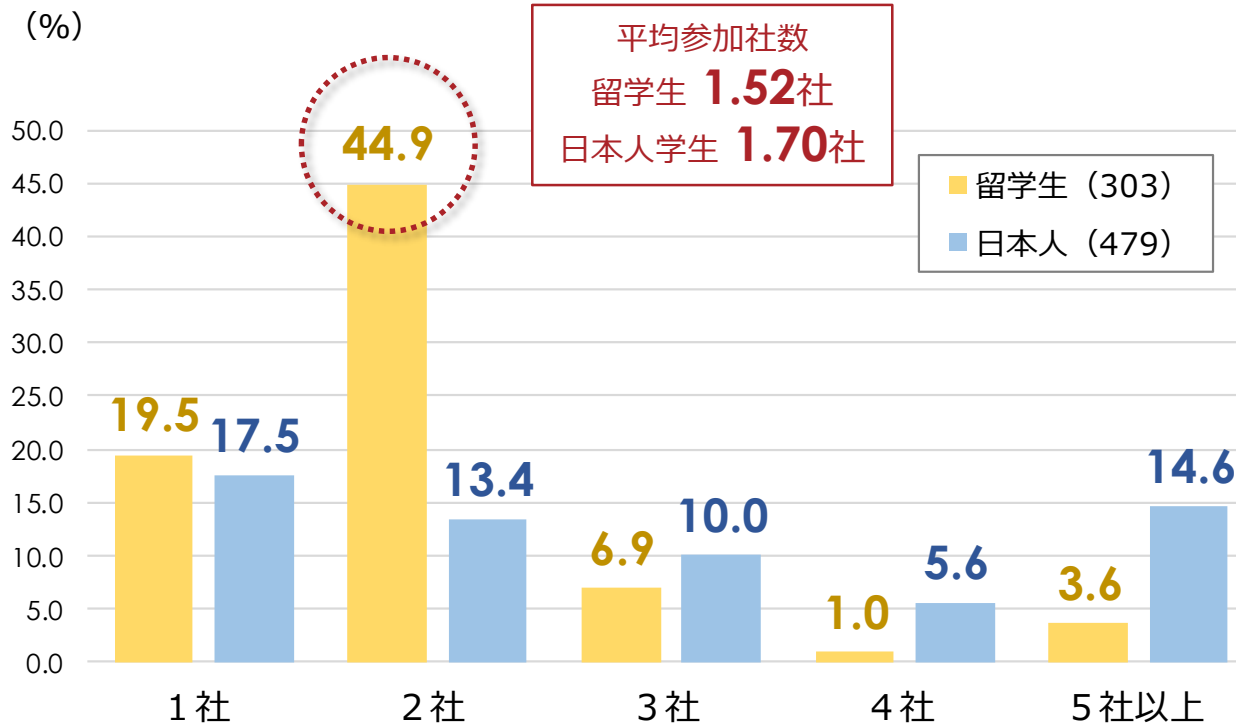
留学生のインターンシップ参加率は、75.9%と日本人学生を上回る。

参加社数は日本人学生よりも少ないが、約半数が2社のインターンシップに参加していた。

インターンシップ参加率

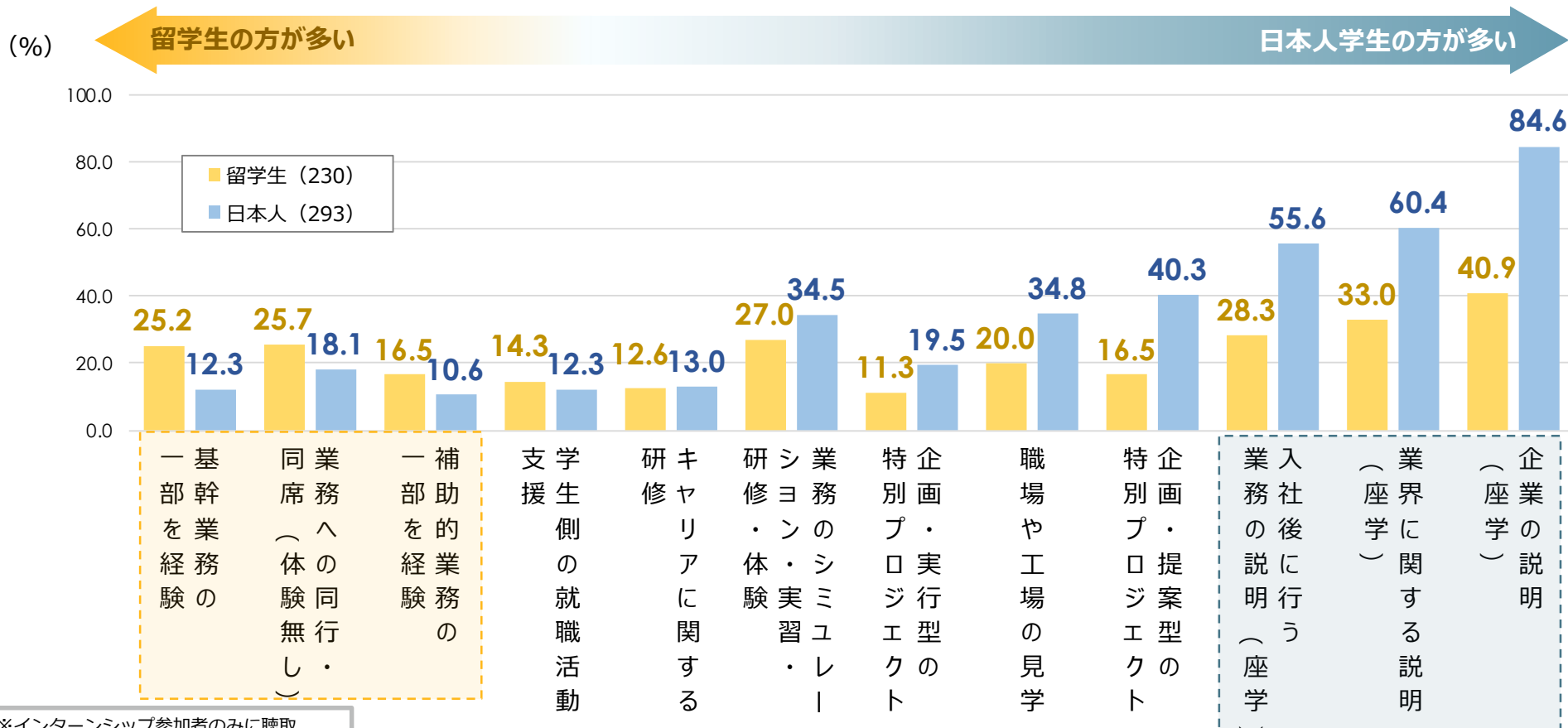


インターンシップ参加社数



留学生は、日本人学生に比べ、実業務体験のインターンシップに参加する傾向。
業務経験を積むことを重視していることが窺える。

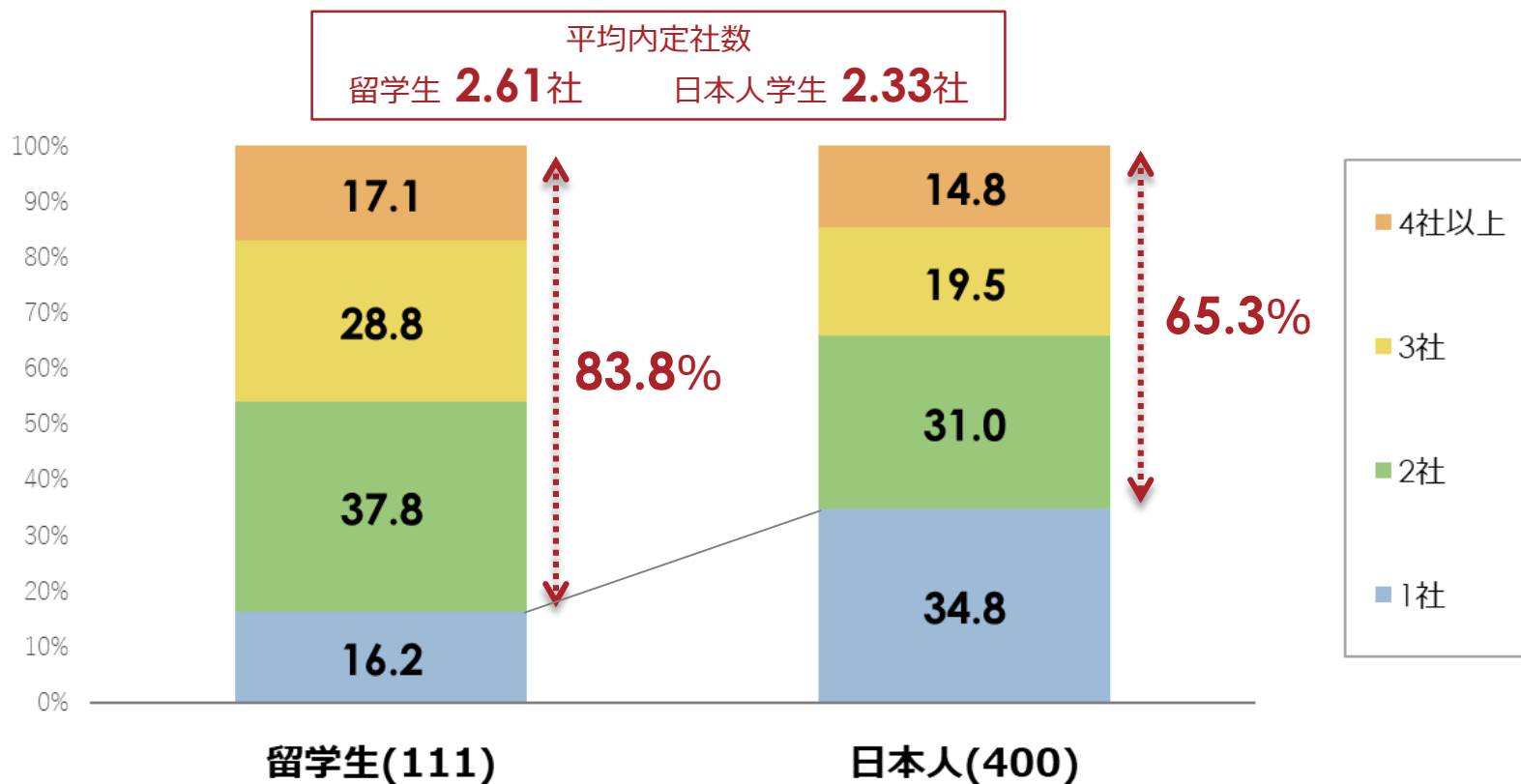
参加したインターンシップの内容



※インターンシップ参加者のみに聴取。
※複数回答形式。

留学生は、8割超の学生が2社以上の内定を得ており、日本人学生よりも内定社数が多い。
留学生は、積極的な情報収集やインターンシップ参加が功を奏し、就職活動成功率も高いことが窺える。

内定社数

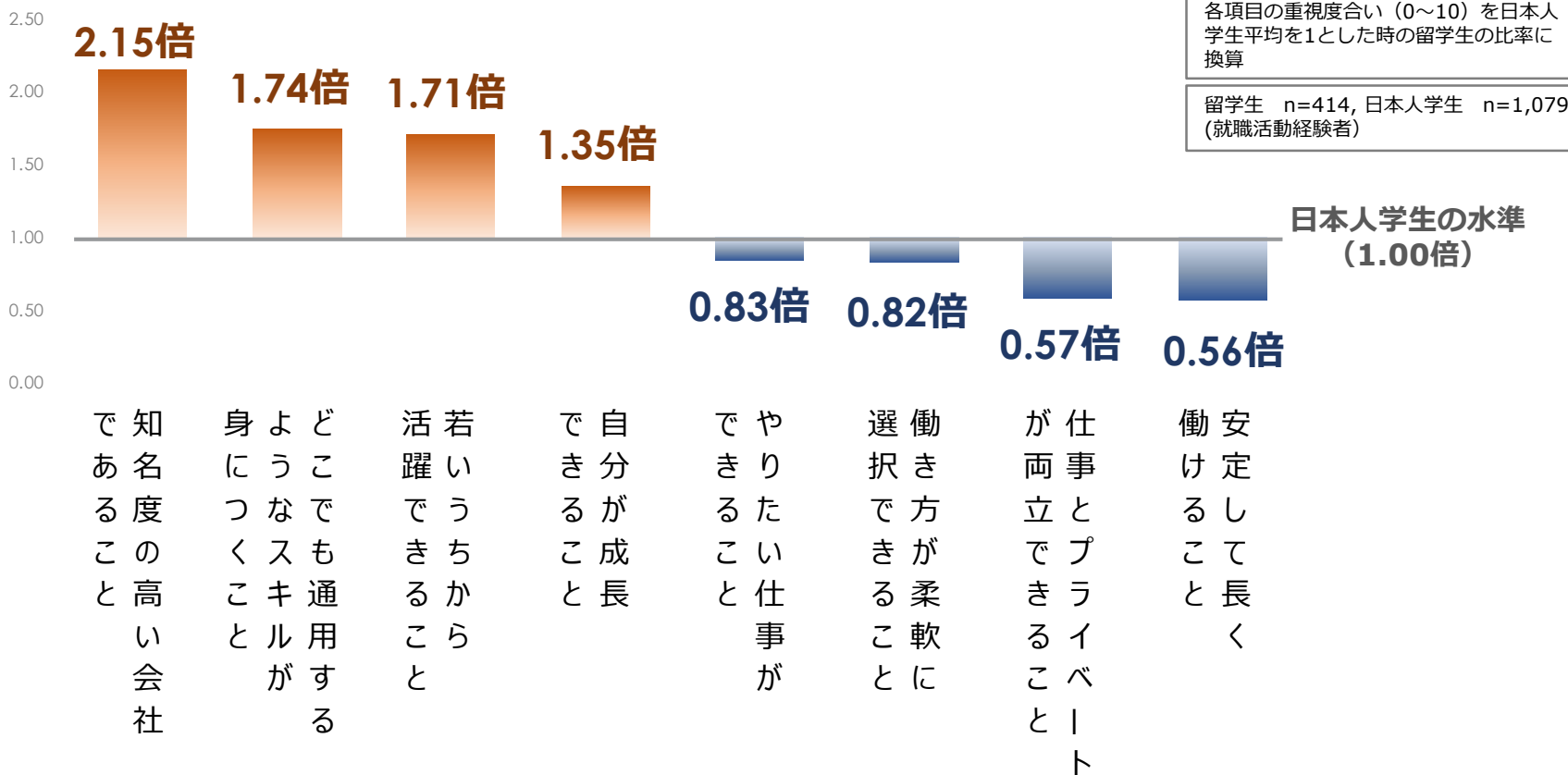


※就活シーズンを揃えるため、留学生は社会人2~3年目、日本人学生は社会人1~2年目を対象に分析。

留学生は日本人学生に比べ、就職先に対して「知名度」や「成長」を求めている。
一方で、「安定」や「プライベートとの両立」は、日本人学生の半分程度とあまり求めていない。

就職先に求めていること

(日本人学生との比較)
重視度合い



<数値>
各項目の重視度合い (0~10) を日本人学生平均を1とした時の留学生の比率に換算

留学生 n=414, 日本人学生 n=1,079 (就職活動経験者)

項目別にみると、「将来、独立したい」と考えている留学生は、約6割にものぼり、日本人学生の約2割と大差。
「責任ある仕事を任されたい」留学生も約7割にのぼる。

留学生の方が高い (%)

順位	キャリア意識	留学生 (457)	日本人 (1500)	GAP
1	将来、独立したい	58.9	23.3	+35.6
2	新しい事業を自分で起こす機会に恵まれたい	60.4	30.5	+29.9
3	責任ある仕事を任されたい	69.6	41.0	+28.6
4	他人から尊敬される仕事がしたい	73.7	54.5	+19.2
5	自分には適した職業・仕事があると思う	72.4	55.9	+16.5
6	名前の知られた会社で働きたい	62.4	45.9	+16.5
7	専門性の高いスキルを身につけたい	75.3	58.9	+16.4
8	周囲の同世代よりも、高い給料をもらいたい	70.7	55.9	+14.8
9	テレワークや在宅勤務など、勤務場所に融通がきく職場で働きたい	63.2	48.4	+14.8
10	自分の可能性が広がる仕事がしたい	75.9	64.9	+11.0

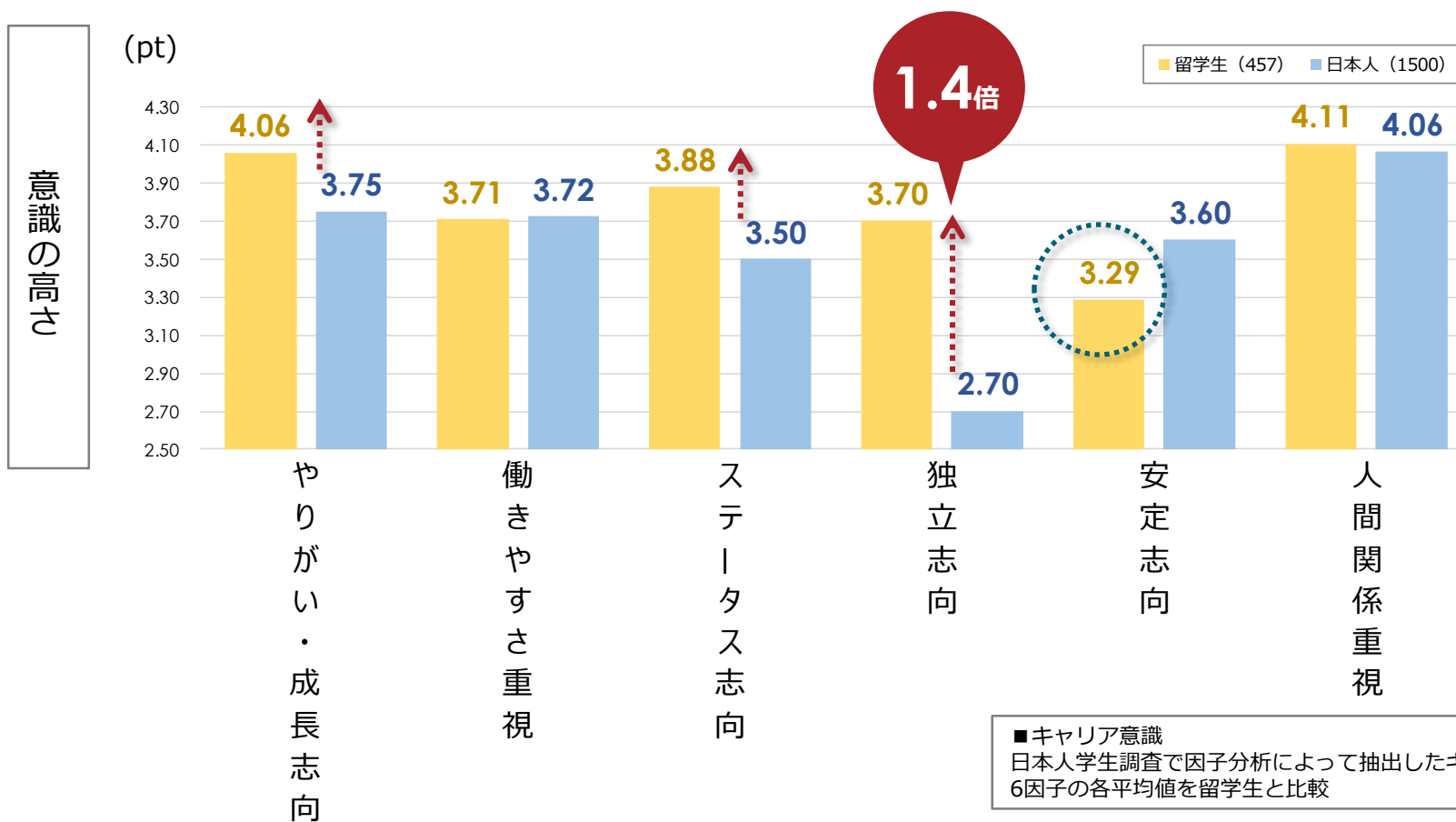
日本人学生の方が高い (%)

順位	キャリア意識	留学生 (457)	日本人 (1500)	GAP
1	リストラ（整理解雇）がない会社で働きたい	56.2	71.1	-14.9
2	自分にとって、働くことはお金を得るための手段にすぎない	43.5	52.7	-9.2
3	定年まで同じ会社に勤めたい	33.3	41.3	-8.0
4	働いている時間より、プライベートの時間を大切にしたい	58.0	64.3	-6.3
5	残業がほとんど無い職場で働きたい	56.2	60.4	-4.2
6	自分らしい職業・仕事がしたい	67.6	71.3	-3.7
7	同僚との雰囲気の良い職場で働きたい	74.8	78.1	-3.3
8	自宅から近い勤務先で働きたい	61.9	63.5	-1.6

※留学生の方が高い項目は、TOP10項目を抜粋
※「あてはまる～あてはまらない」5段階聴取。数値はTOP2選択率

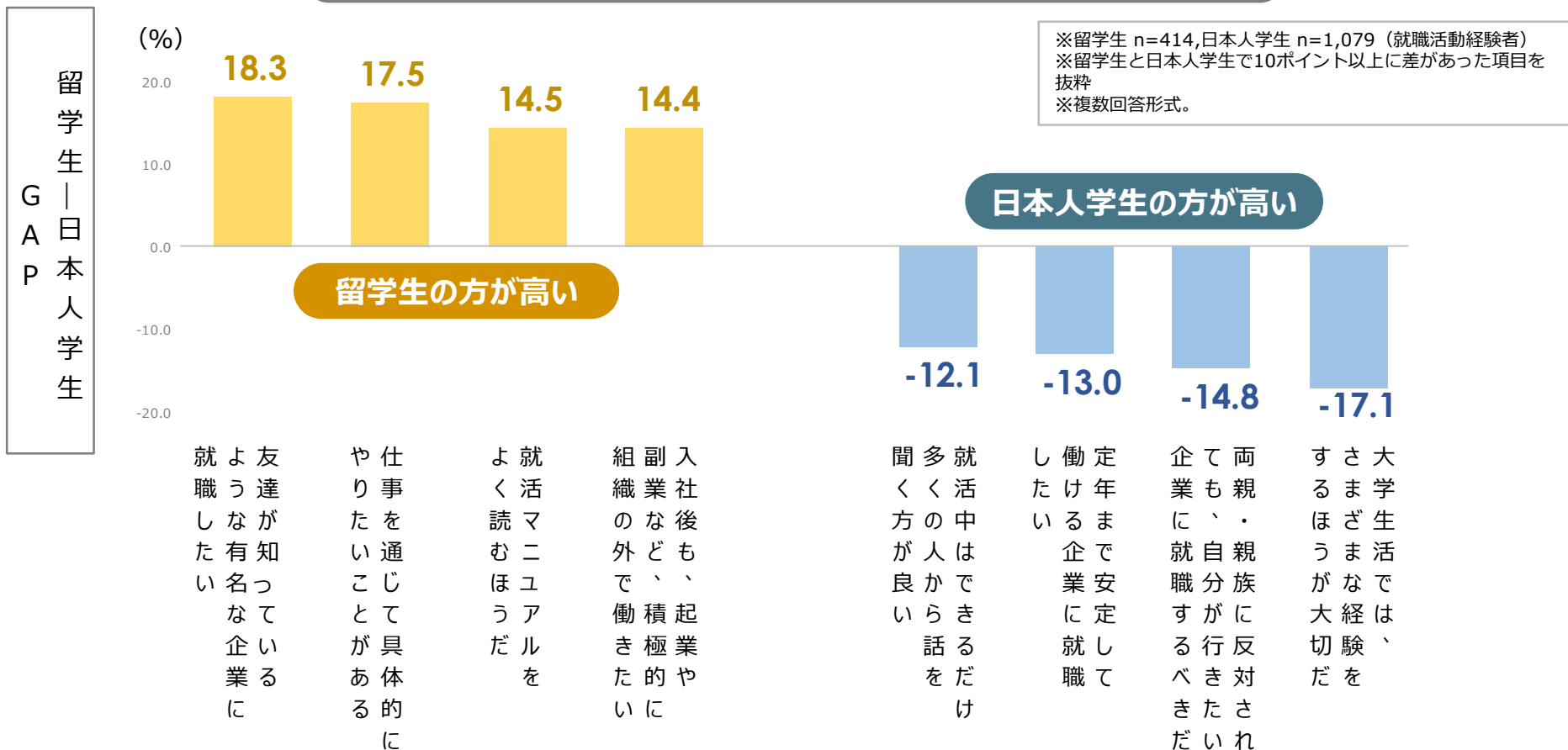
キャリア意識の中で、留学生の方が強いのは「やりがい・成長志向」「ステータス志向」「独立志向」。
特に「独立志向」は大きく差が開いた。一方、「安定志向」が日本人学生よりも低い。

キャリア意識 【6因子平均値】

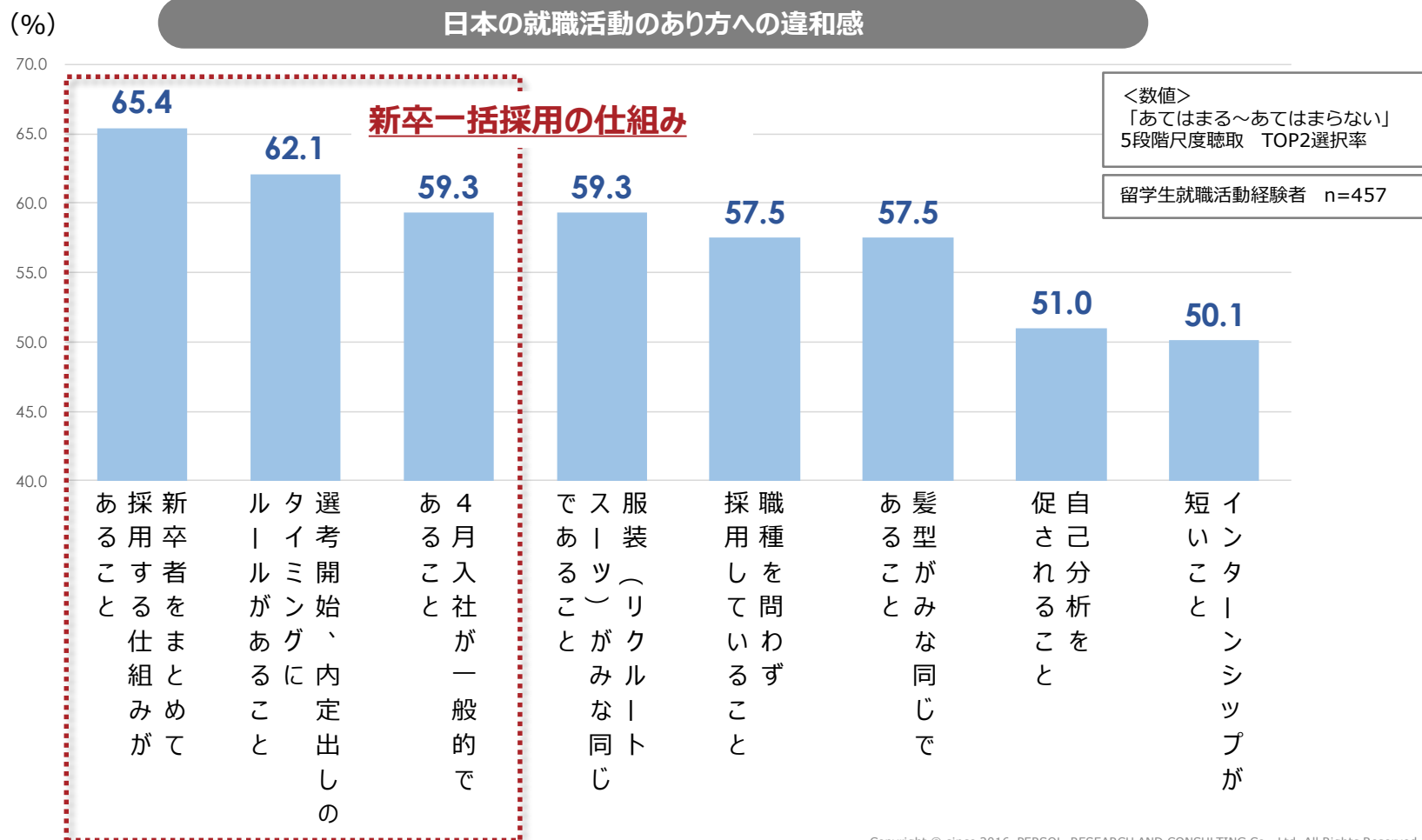


就職活動において、留学生は、日本人学生と比べて「企業の知名度」や「やりたいこと」を意識している。「就活マニュアルをよく読む」傾向もあり、慣れない日本での就職活動で、マニュアルに頼っていることが窺える。

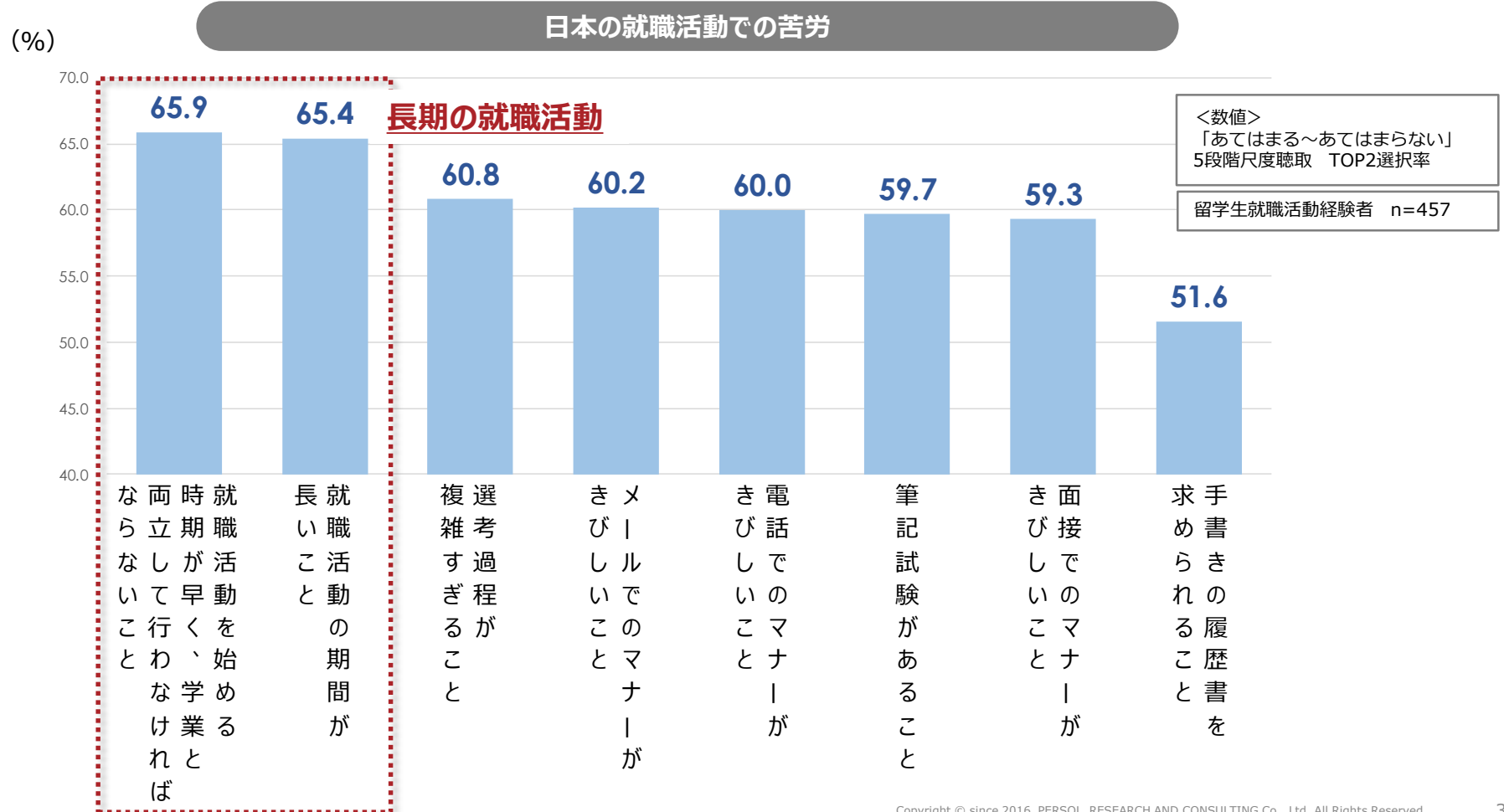
就職活動意識



日本の就職活動に対する違和感について尋ねたところ、
約6割の留学生が、新卒一括採用の仕組みについて違和感を感じていた。

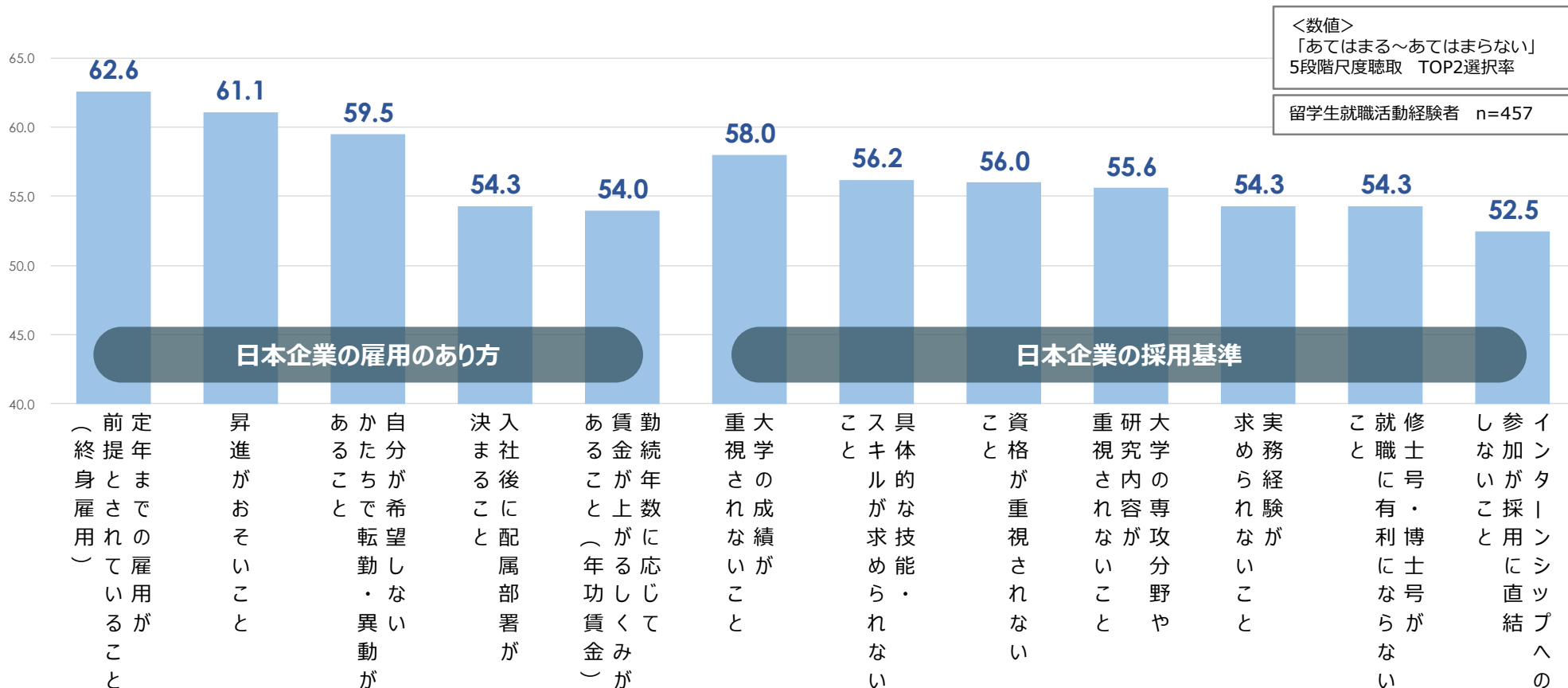


日本の就職活動において苦勞していることについて尋ねたところ、
約65%の留学生が、就職活動の開始時期の早さや、長期化に苦勞していた。



日本企業の雇用のあり方や採用基準に対する違和感について尋ねたところ、過半数の留学生が、終身雇用、希望にそぐわない転勤・異動や、具体的能力が求められない採用基準に違和感を感じていた。

日本企業の雇用・採用のあり方への違和感

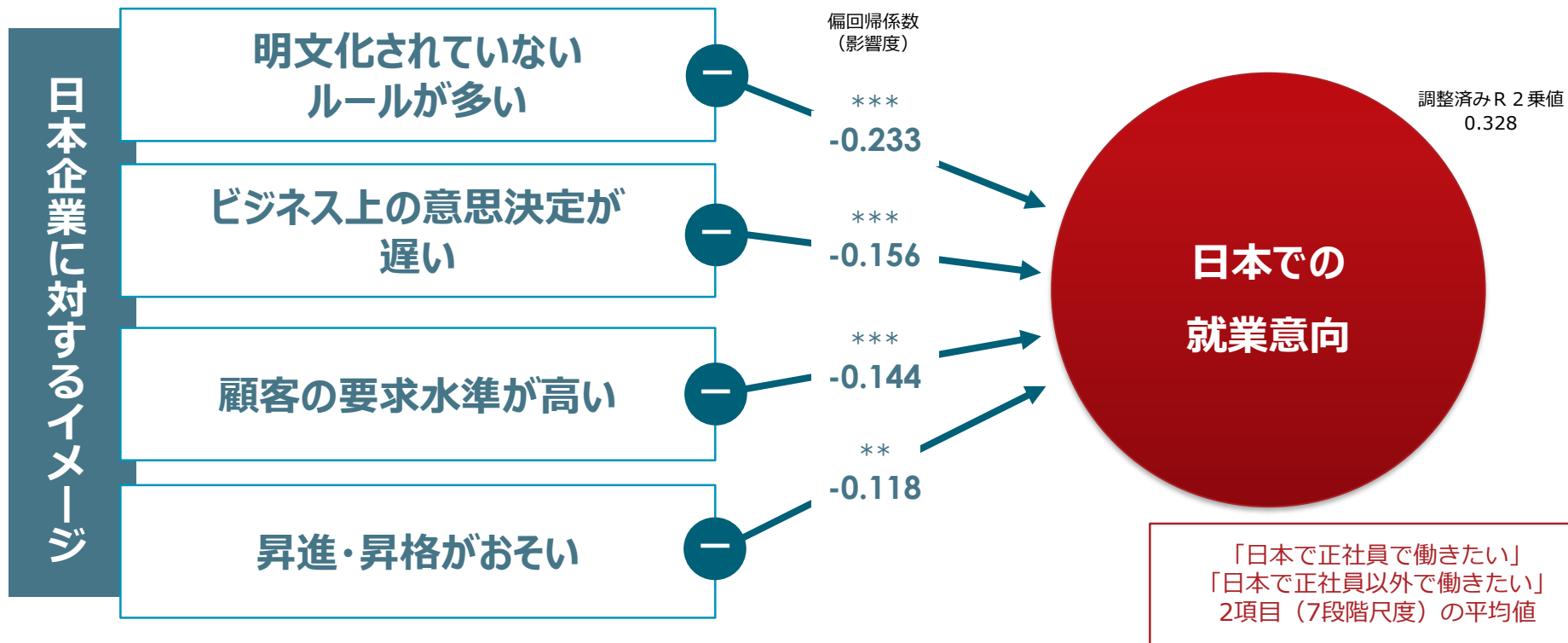


日本企業に対する「暗黙のルールが多い」「ビジネス上の意思決定が遅い」などのイメージは、
留学生の日本での就業意向を低下させている。

重回帰分析

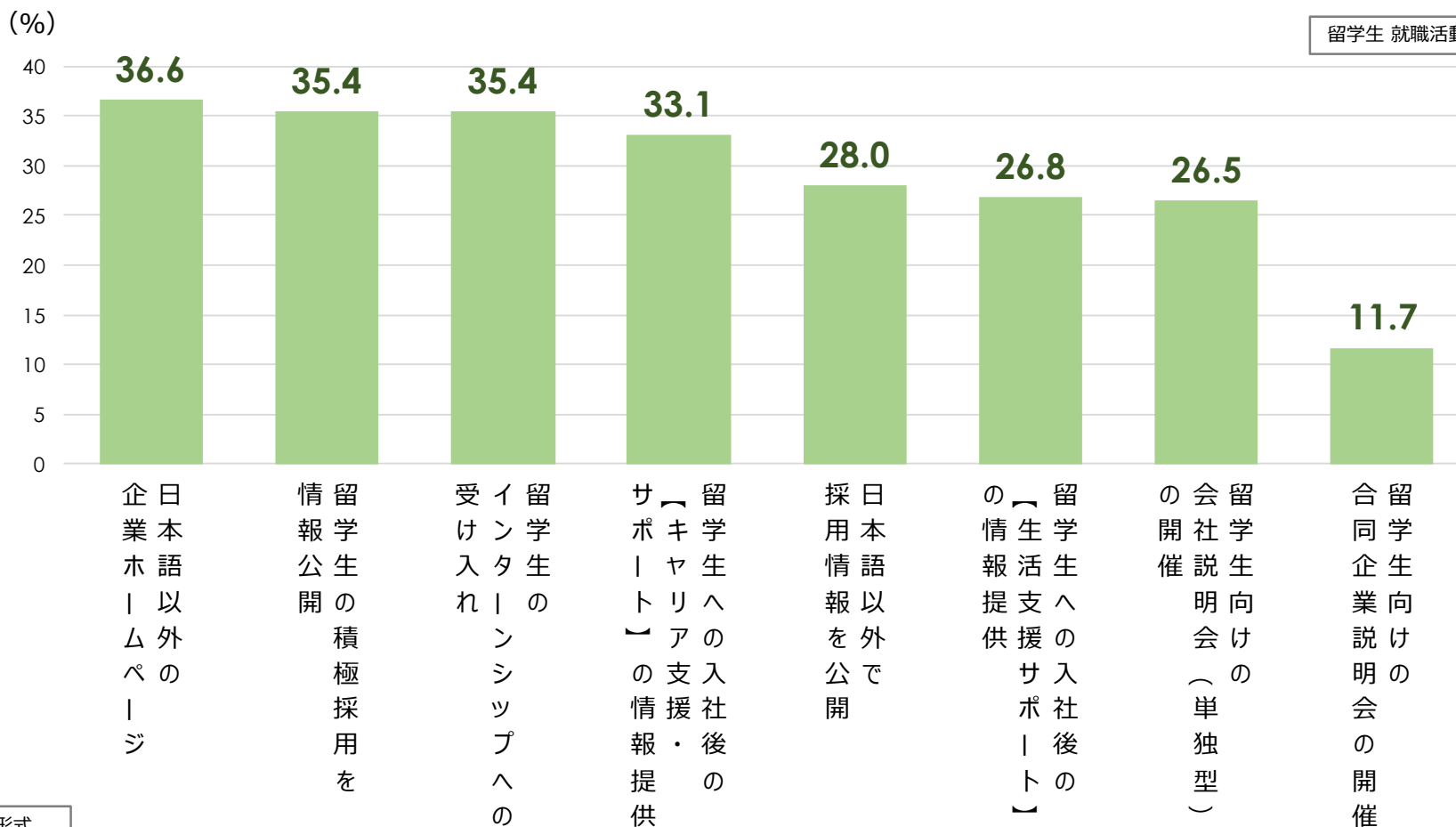
従属変数 | 日本での就業意向
統制変数 | 性別、国籍（地域）、日本語能力、出身学校偏差値、学部、国立/私立
留学生 n=300

*** : 1%水準で有意
** : 5%水準で有意



留学生の第一志望企業の約3割は、「留学生積極採用の情報公開」や「留学生へのキャリア支援・サポートの情報提供」など、留学生に向けた採用活動を行っている。

留学生の第一志望企業の採用活動



※複数回答形式。

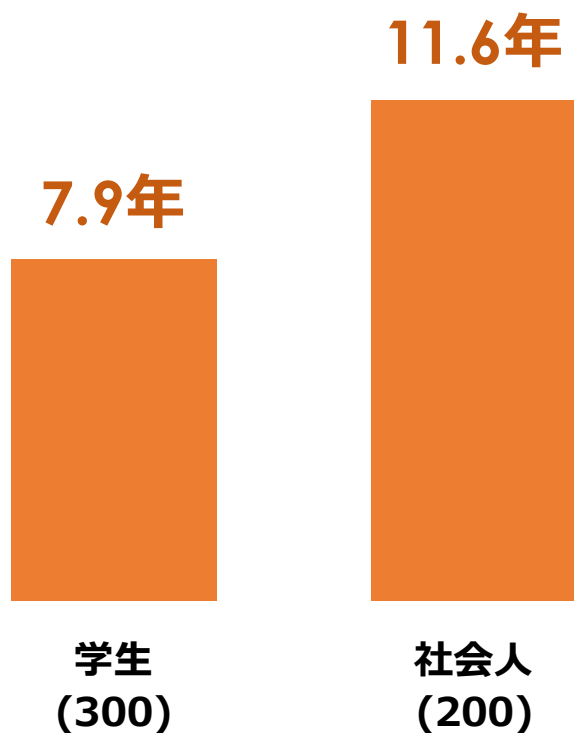
調査結果③

留学生の入社後の実態

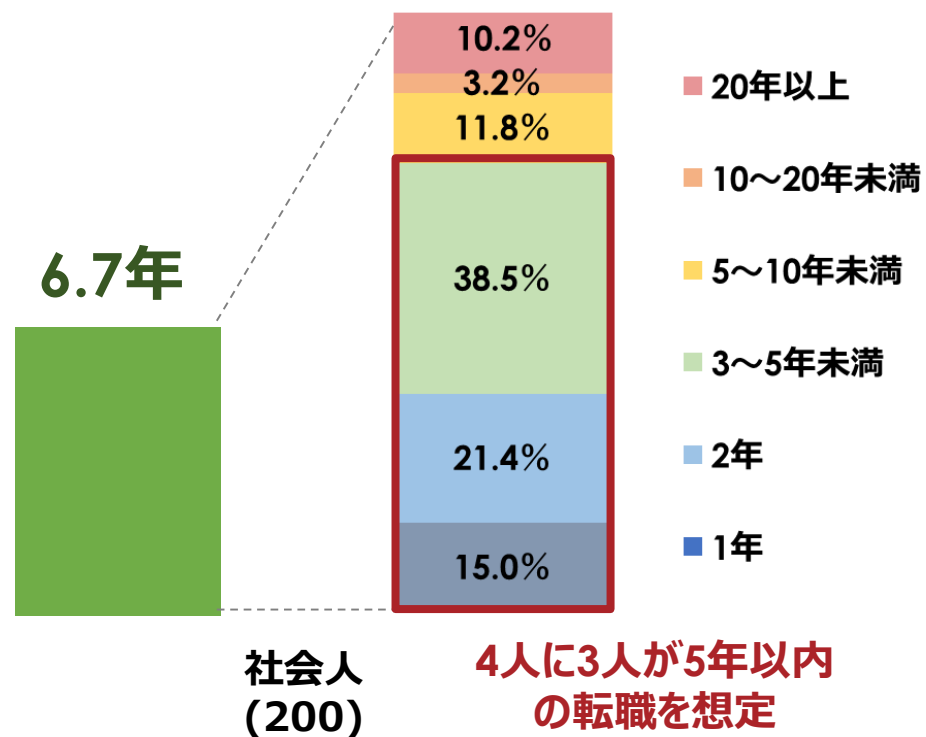
パーソル総合研究所
留学生の就職活動と入社後の実態に関する定量調査

元留学生社会人の日本で働きたい年数は、平均約12年と長く、永住希望者が多いことが窺える。
一方で、現在の会社については4人に3人が、5年以内の転職を想定している。

「日本で」働きたい年数



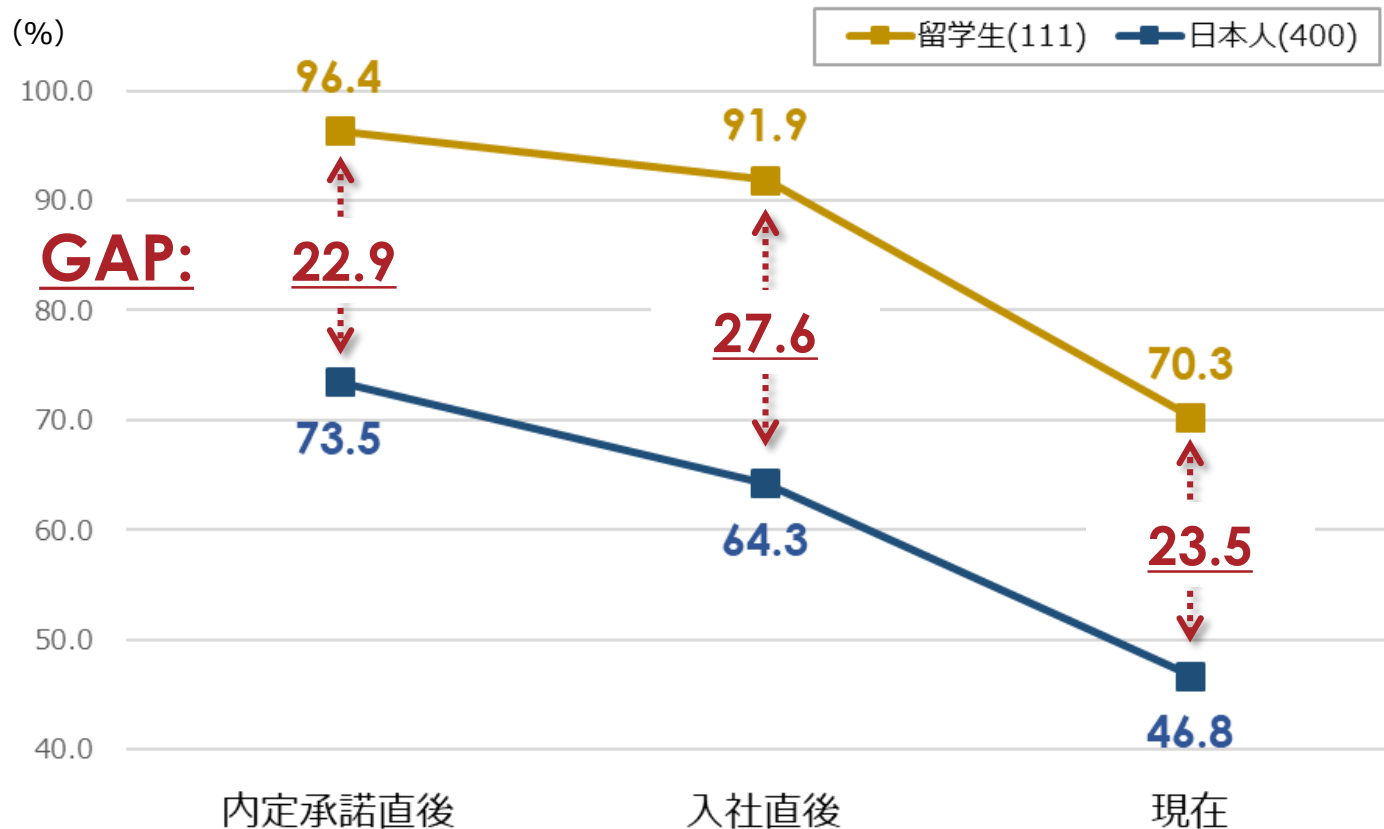
「現在の会社で」働きたい年数



※社会人は「これから何年働きたいか」、学生は「就職後何年働きたいか」を聴取。

就職先企業への満足度は留学生が高いが、低下していく傾向は日本人学生と変わらない。

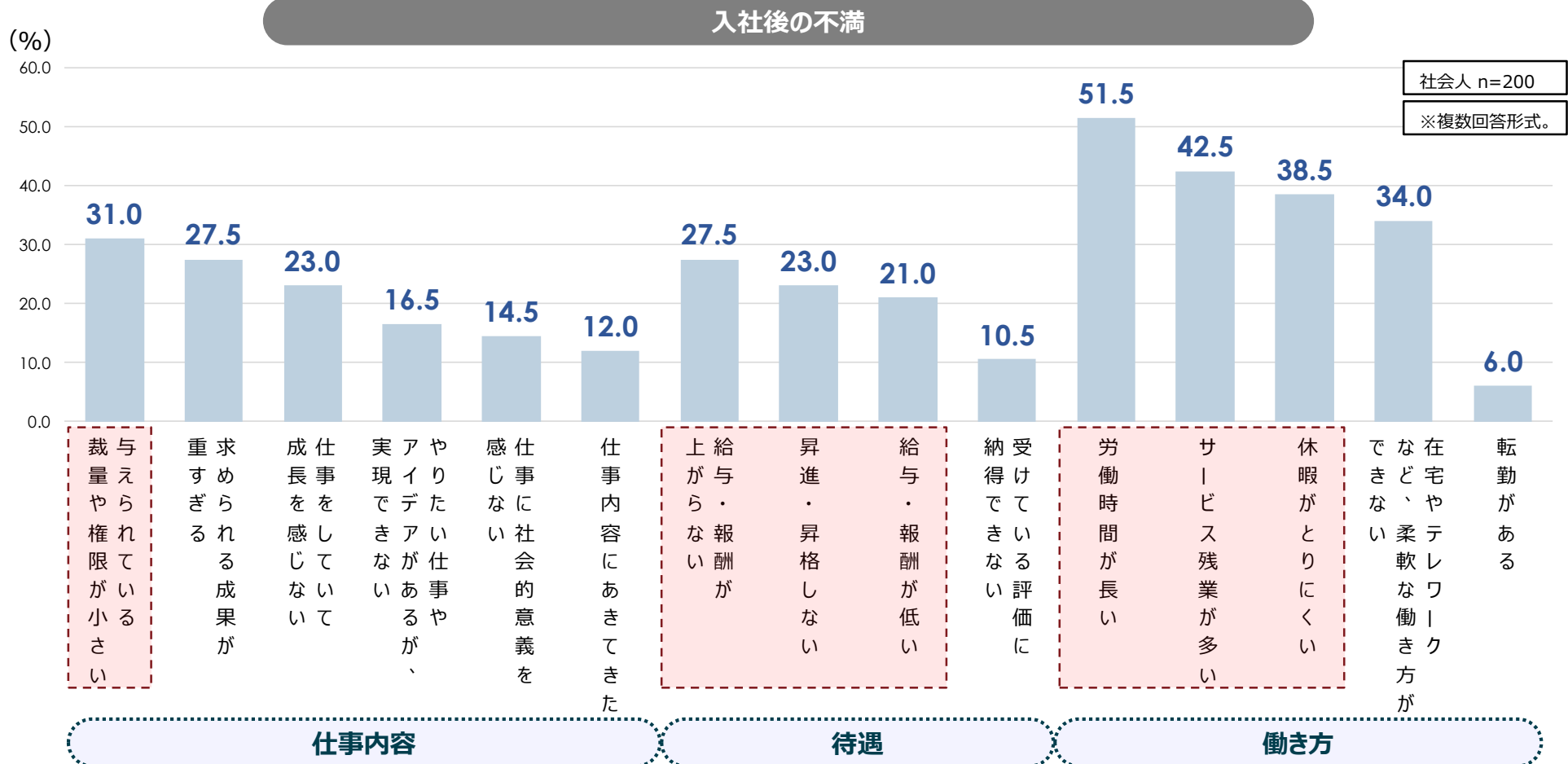
就職先企業への満足度



<数値>
「非常に満足～非常に不満」の7段階尺度聴取TOP3割合

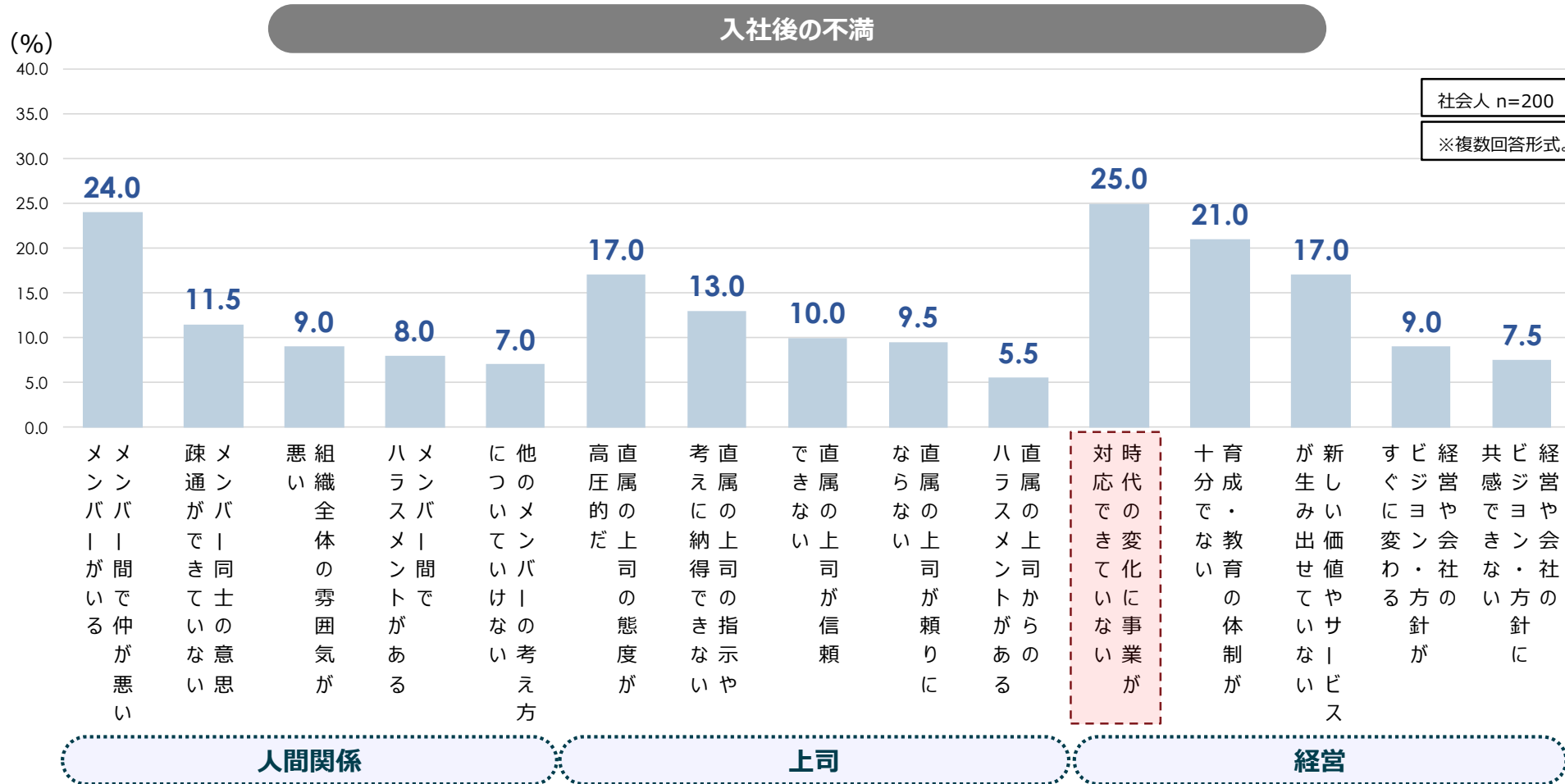
※就活シーズンを揃えるため、留学生は社会人2~3年目、日本人学生は社会人1~2年目を対象に分析。

留学生の入社後の不満をみると、「裁量や権限の少なさ」「給与の上がりにくさ」「労働時間の長さ」等が多い。
長時間労働を求められるが、若いうちから活躍できないことに不満を抱いていることが窺える。



約3割の留学生が、「事業の変化のスピードの遅さ」に不満を持っている。

人間関係や上司への不満は比較的少ない。



内資企業では「給与・報酬や裁量」「育成体制の不十分さ」、外資企業では「ワーク・ライフ・バランス」に対する不満が大きい。

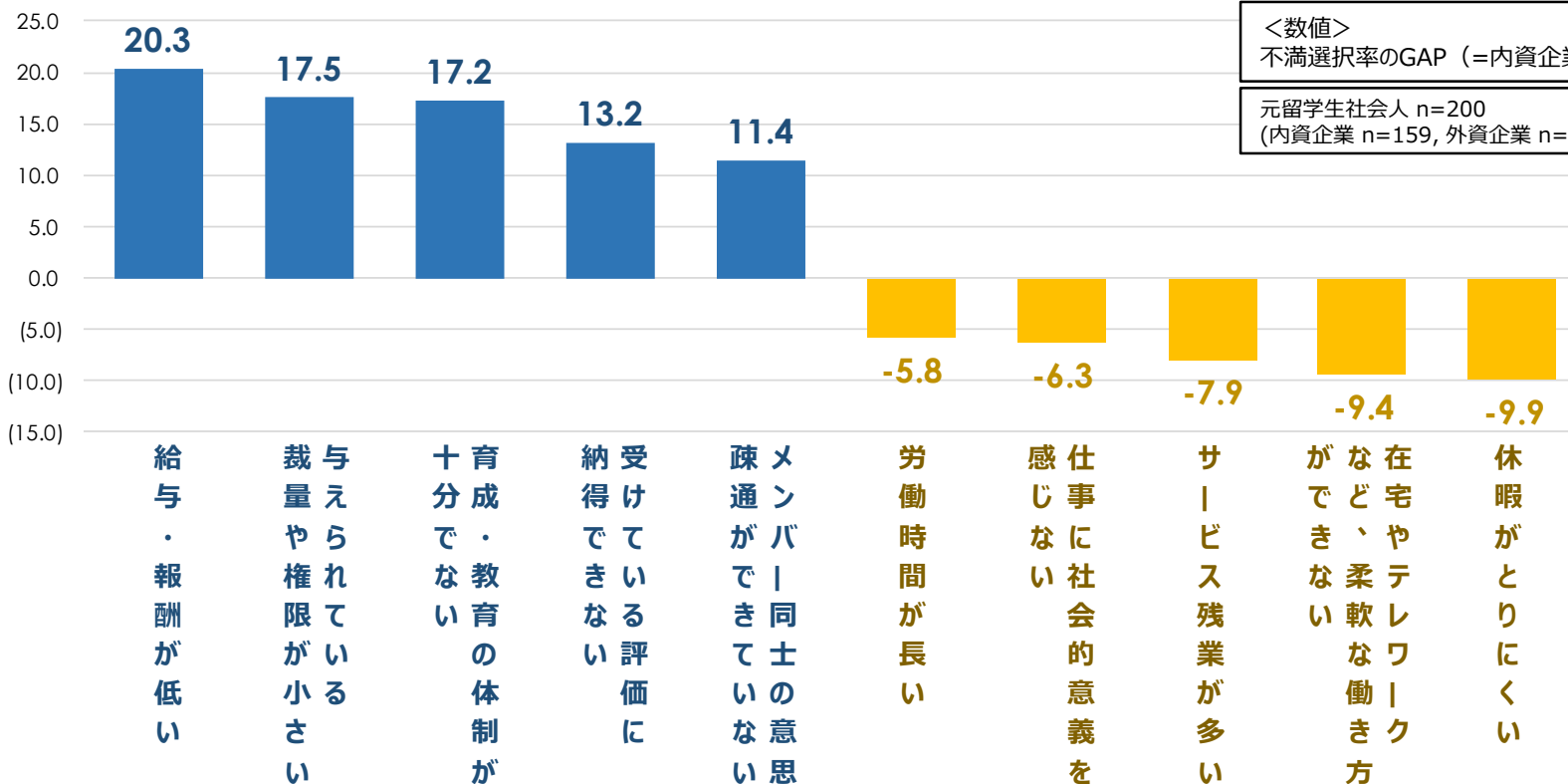
入社後の不満（内資・外資企業比較）

内資企業の方が不満が大きい項目
TOP5

外資企業の方が不満が大きい項目
TOP5

(%)

内資
|
外資
G
A
P



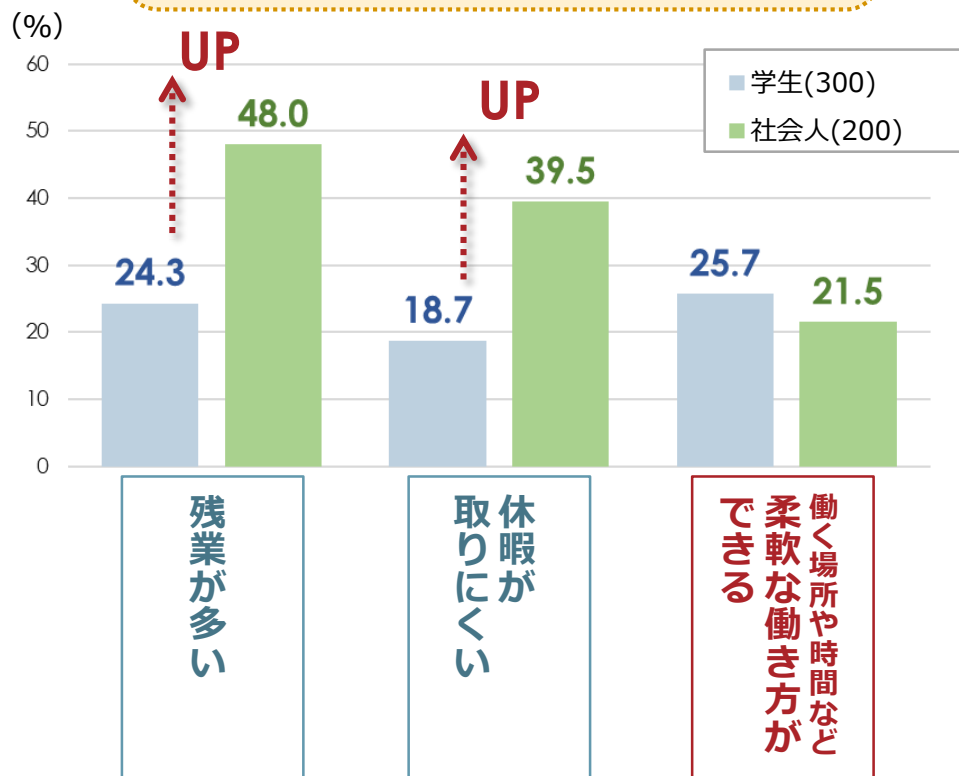
<数値>
不満選択率のGAP (=内資企業-外資企業)

元留学生社会人 n=200
(内資企業 n=159, 外資企業 n=41)

定着を阻害する職場の要素は、学生と社会人と比べると社会人の方が強く感じている。
入社前の日本で働くことに対するネガティブイメージが、入社後により強固になっていることが窺える。

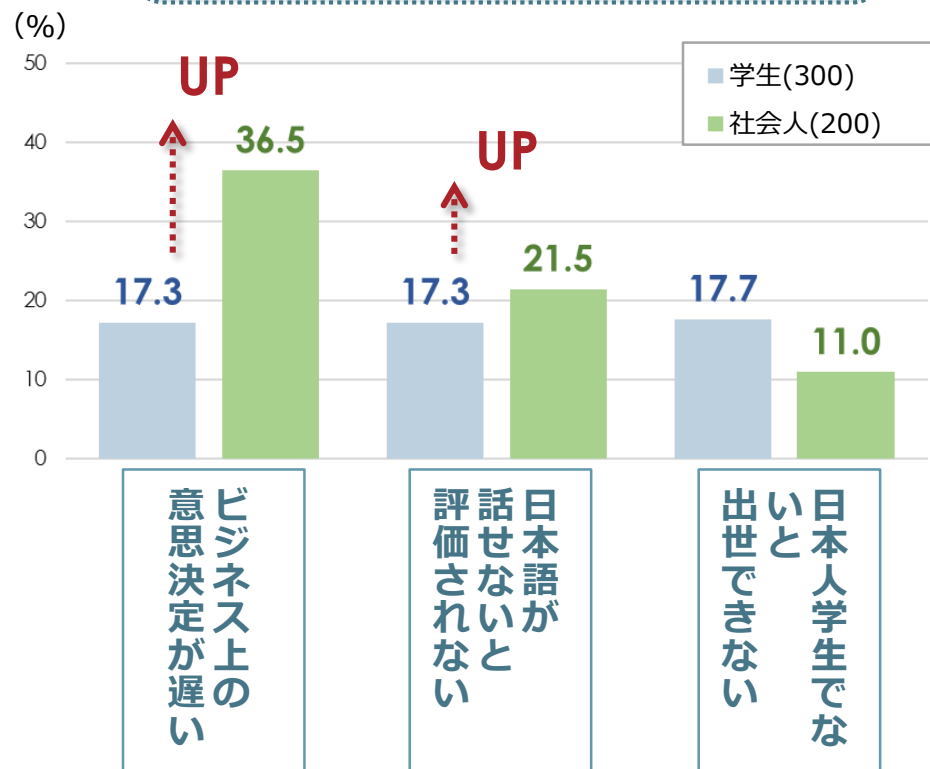
留学生の日本で働くイメージと入社後実態の比較

就業継続意向を下げる（高める）要素



※就業継続意向を高める

転職意向を高める要素



社会人（元留学生）の定着を促すためには、雇用の在り方や就業環境、組織風土の改善がポイントとなる。

重回帰分析

従属変数 | 継続就業意向

統制変数 | 性別、国籍（地域）、日本語能力、出身学校偏差値、学部、国立・私立、業種、職種、内外資

社会人 n=200

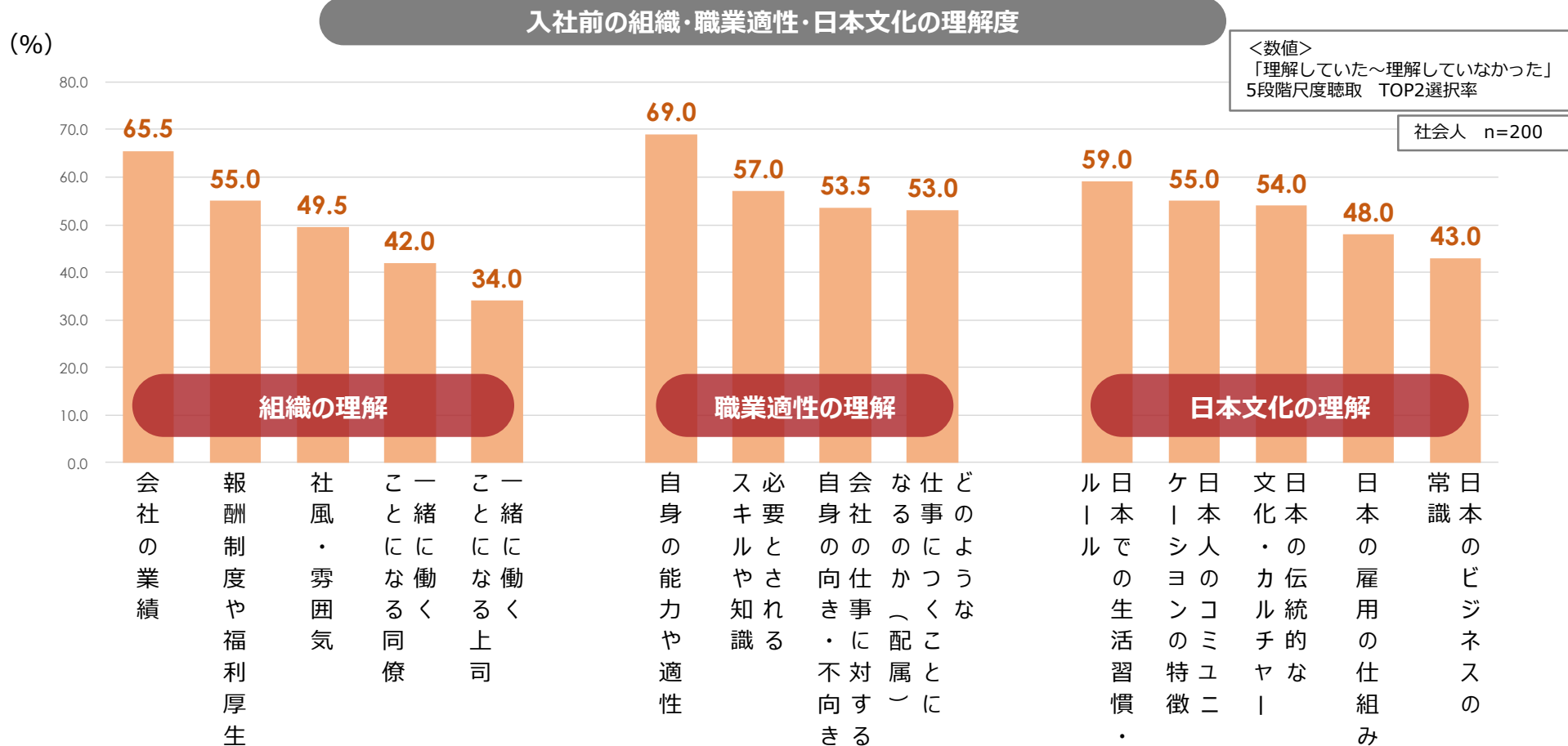
*** : 1%水準で有意

** : 5%水準で有意

- : 有意でない

		従属変数		
		継続就業意向	転職意向	
独立変数	調整済みR ² 乗値決定係数		0.170	0.155
	雇用のあり方への違和感	入社後に配属部署が決まること	-0.223***	-
		年功賃金	-0.187**	-
		終身雇用	-	0.186**
	調整済みR ² 乗値決定係数		0.414	0.269
	就業環境	休暇がとりにくい	-0.207**	-
		残業が多い	-0.314***	-
		働く場所や時間など、柔軟な働き方ができる	0.198***	-
	組織風土	ビジネス上の意思決定がおそい	-	0.253***
		日本語が話せないと評価されない	-	0.152**
日本人学生でないと出世できない		-	0.172**	

入社前の就職先企業の理解度合いを、組織・職業適性・日本文化の3つの観点から確認した。
それぞれの理解度合いは以下の通り。

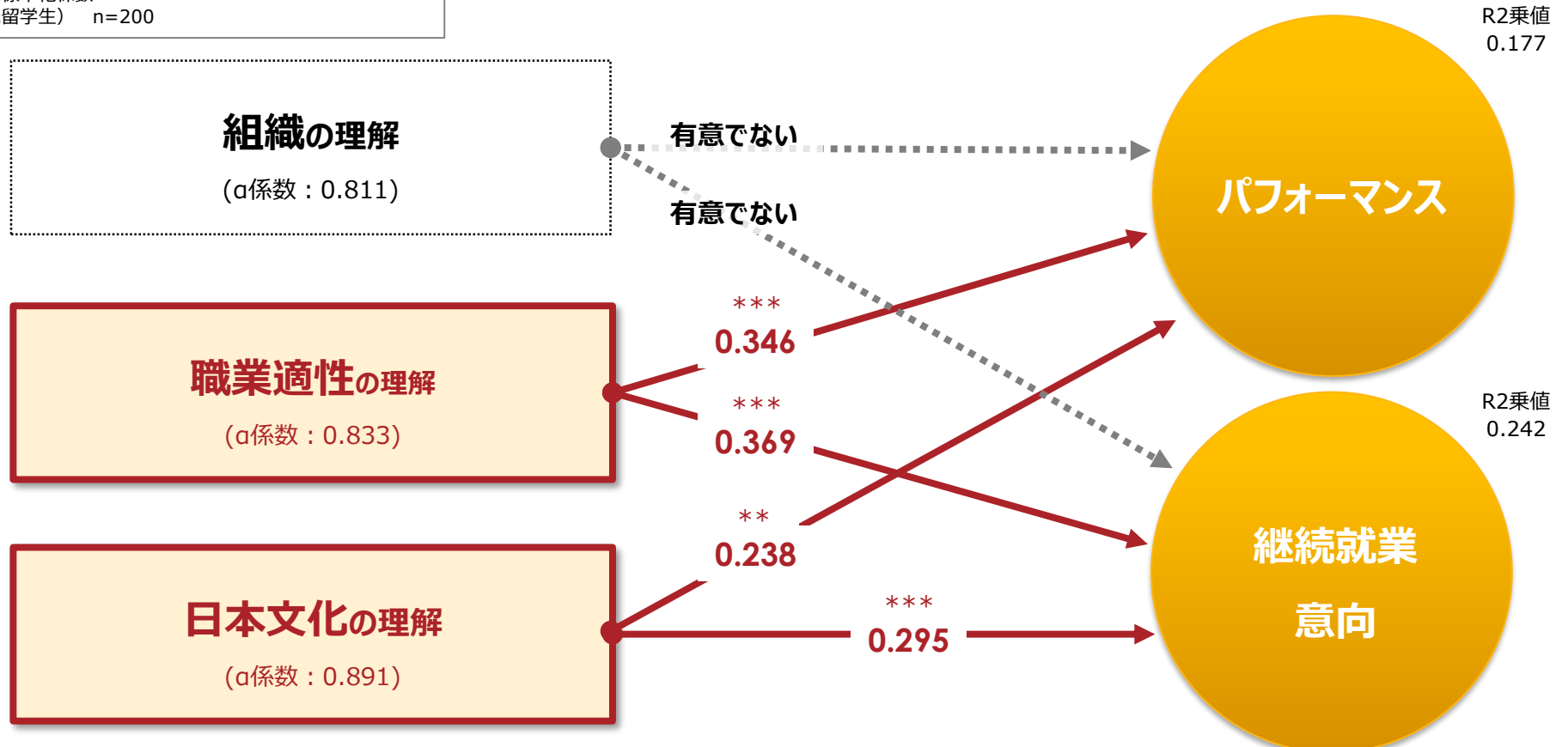


入社前の組織・職業適性・日本文化理解の影響をみると、
職業適性と日本文化の理解が、入社後のパフォーマンスや定着に正の影響を与えていることがわかった。

共分散構造分析

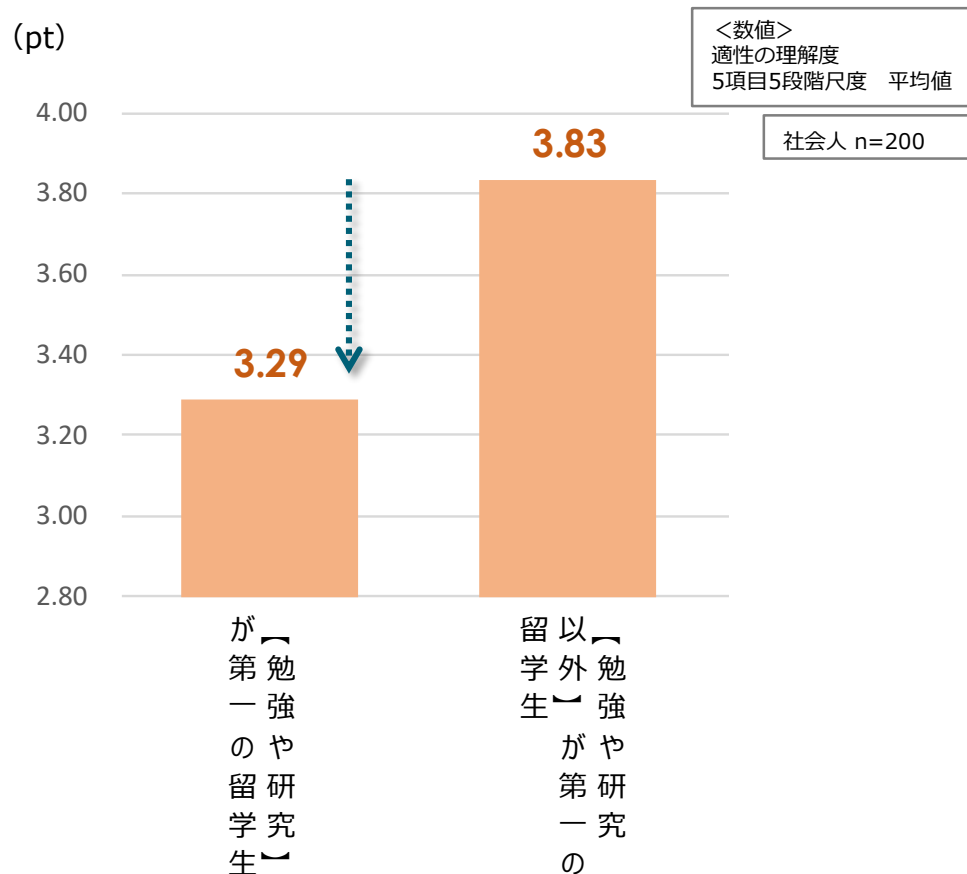
適合度指標：GFI=0.996 AGFI=0.933 RMSEA=0.079
記載数値は標準化係数
社会人（元留学生） n=200

***：0.1%水準で有意
**：1%水準で有意

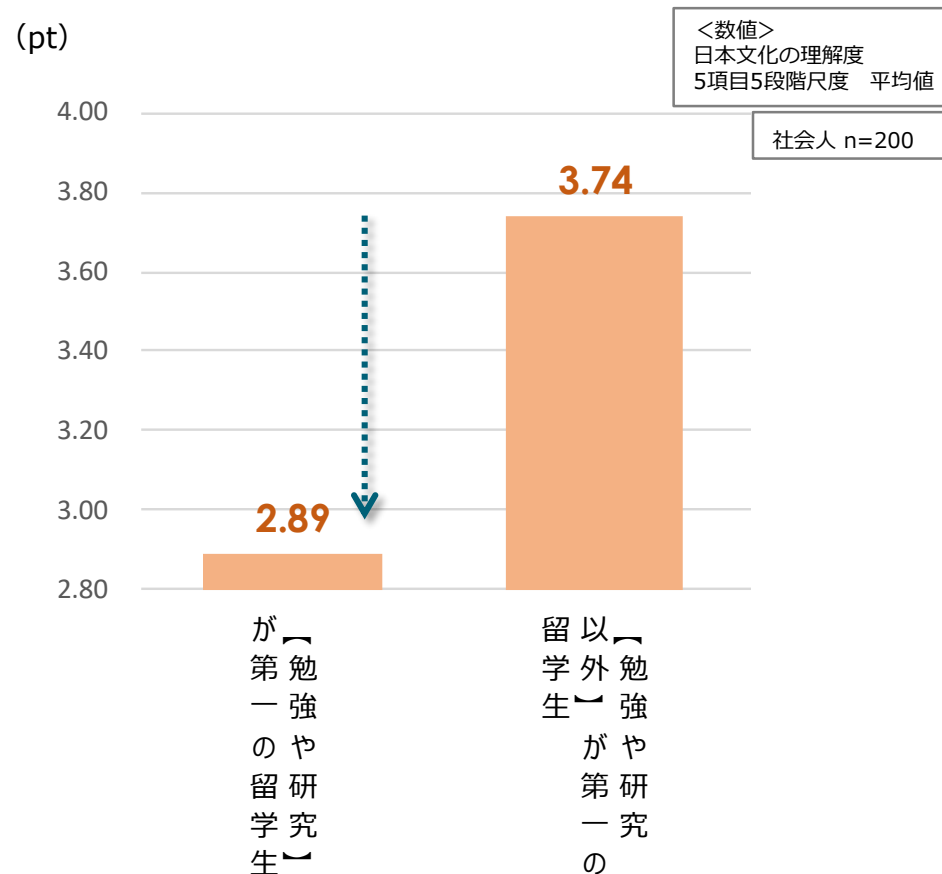


学生生活において、勉強や研究を最重視している社会人（元留学生）は、職業適性・日本文化の理解が低い。

入社前の【職業適性】の理解度合い



入社前の【日本文化】の理解度合い



学生生活において「社会勉強」に時間を割いている者、就職活動において「大学生活でのさまざまな経験」や「就活マニュアルにこだわらないこと」を意識している者は、入社前に職業適性の理解が促進されている。

重回帰分析

従属変数 | 入社前の日本文化的な観点からの理解
統制変数 | 性別、国籍（地域）、日本語能力、出身学校偏差値、学部、国立・私立、業種、職種、内外資
社会人（元留学生） n=200

*** : 1%水準で有意
** : 5%水準で有意

学生生活の活動量

就職活動の意識

人との交流

社会勉強

大学の勉強

自己学習

娯楽（ゲーム・漫画）

職業適性の
理解

大学生活では
さまざまな経験を
する方が大切

就活マニュアルに
こだわりすぎない

偏回帰係数
(影響度)

偏回帰係数
(影響度)

影響なし

影響なし

影響なし

影響なし

**

0.198

0.251

0.197

調整済みR²乗値
0.178

調整済みR²乗値
0.315

学生生活において、「人との交流」「社会勉強」に時間を割いている者や、「人と接するアルバイト」を多く経験している者は、入社前の日本文化理解が促進されている。

重回帰分析

従属変数 | 入社前の日本文化的な観点からの理解
統制変数 | 性別、国籍（地域）、日本語能力、出身学校偏差値、学部、国立・私立、業種、職種、内外資
社会人（元留学生） n=200

*** : 1%水準で有意
** : 5%水準で有意

学生生活の活動量

人との交流

+

偏回帰係数
(影響度)

0.229

社会勉強

+

**
0.223

大学の勉強

影響なし

自己学習

影響なし

娯楽（ゲーム・漫画）

-

-0.243

日本文化の
理解

調整済みR²乗値
0.312

アルバイト経験

人と接する
アルバイト経験種類数
(販売・接客サービス等)

+

偏回帰係数
(影響度)

0.256

人と接しない
アルバイト経験種類数
(製造業、配送・運送・軽作業等)

影響なし

調整済みR²乗値
0.268

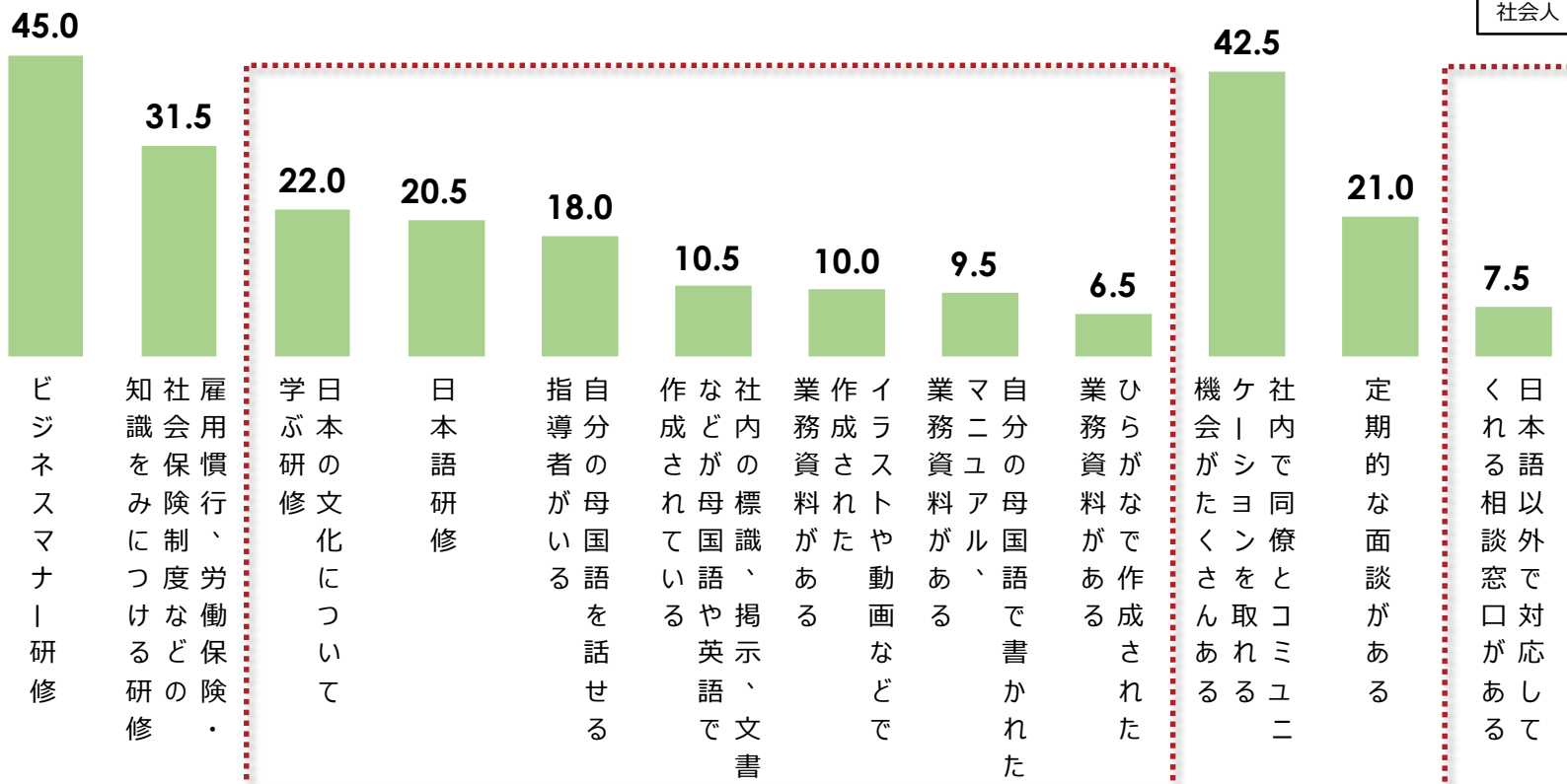
実施が多いのは、ビジネスマナー研修やコミュニケーション機会といった、日本人学生と変わらないサポート。

「言語・文化的なサポート」といった社会人（元留学生）向けの特別なサポートは、2割前後の留学生が受けている。

(%)

企業の入社後のサポート・配慮

社会人 n=200



研修実施

言語サポート

コミュニケーション支援

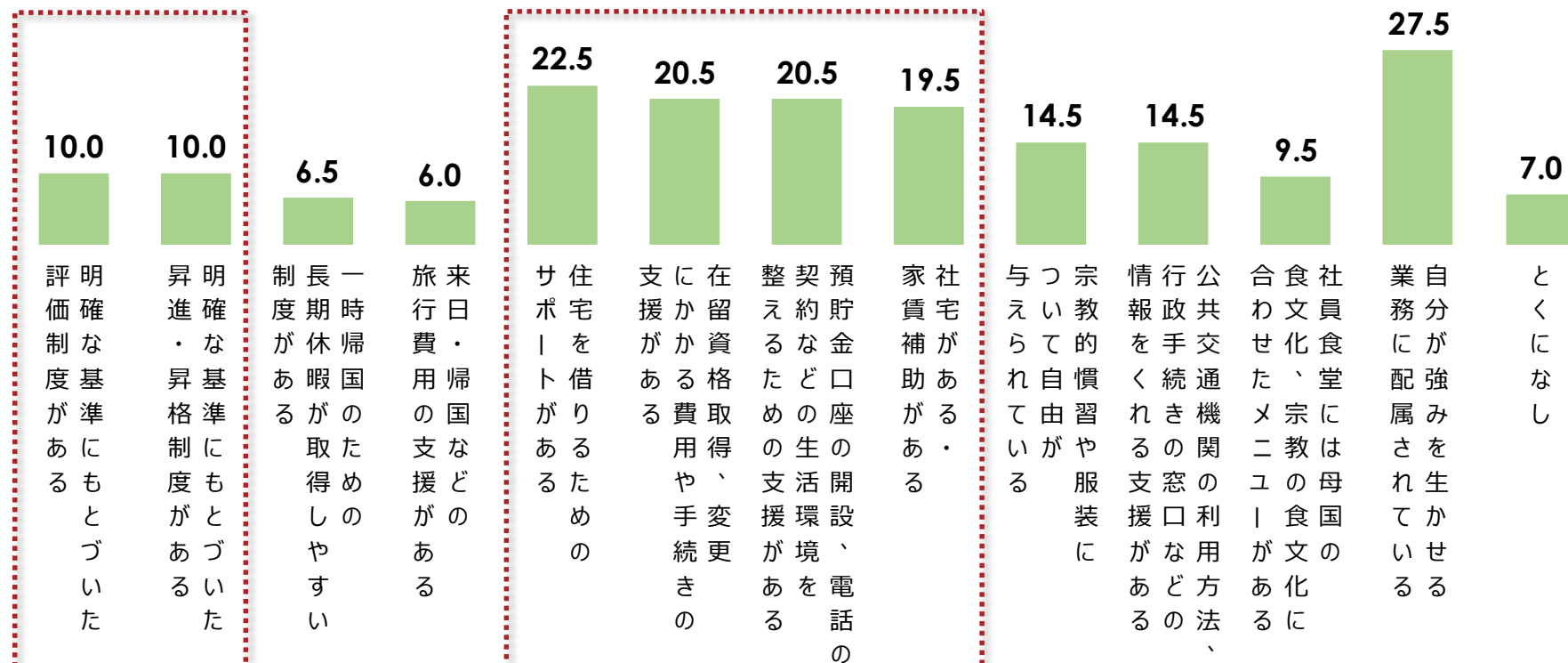
約2割の留学生が、「住宅支援」や、「生活上の契約・手続きの支援」を受けている。

「明確な基準に基づいた評価・昇進制度」があると感じている社会人（元留学生）は1割と少ない。

(%)

企業の入社後のサポート・配慮

社会人 n=200



制度の整備

生活上の支援

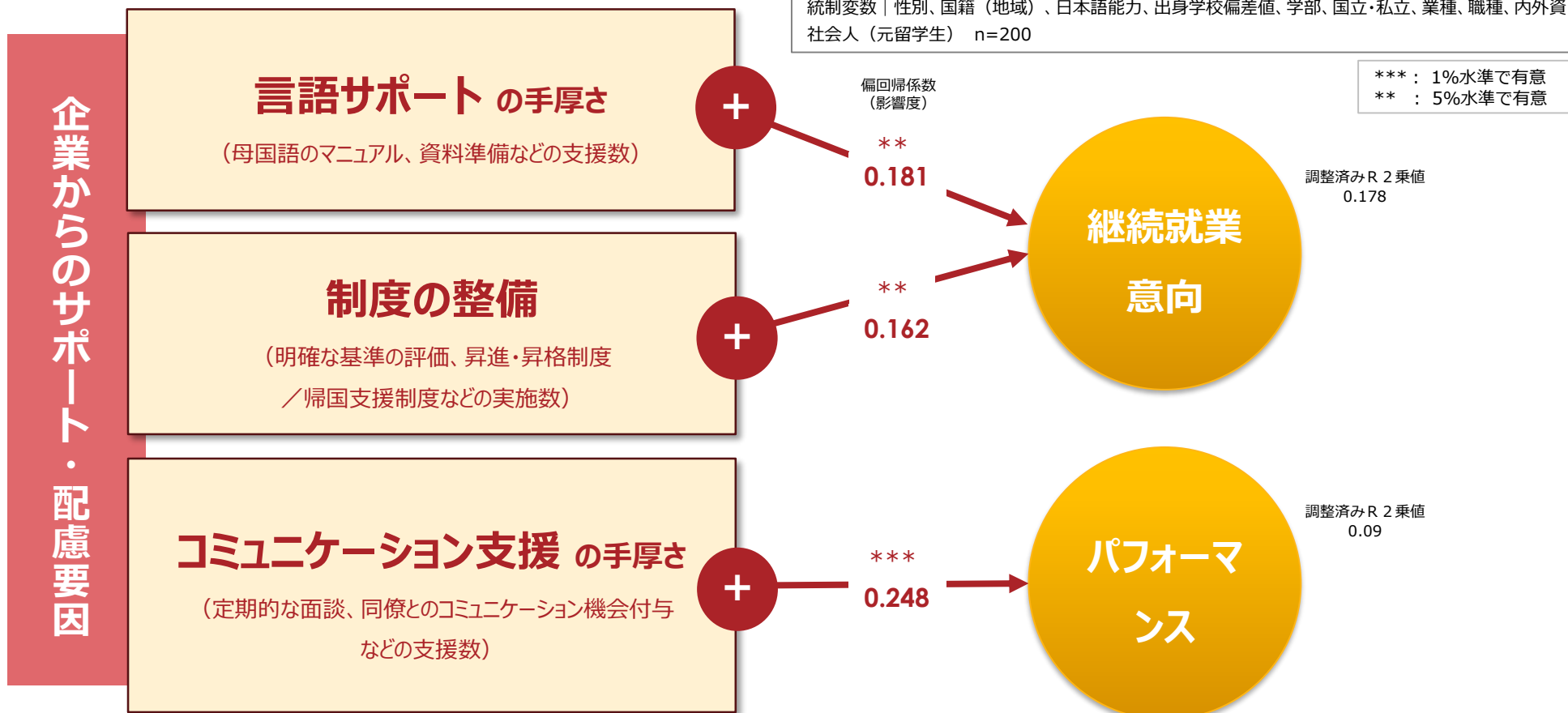
言語サポート（母国語のマニュアル、資料準備など）や、制度の整備（明確な基準の評価、昇進・昇格制度／帰国支援制度など）の支援が社会人（元留学生）の定着を促し、コミュニケーション支援はパフォーマンスに正の影響を与えることがわかった。

重回帰分析

従属変数 | 継続就業意向、パフォーマンス

統制変数 | 性別、国籍（地域）、日本語能力、出身学校偏差値、学部、国立・私立、業種、職種、内外資
社会人（元留学生） n=200

*** : 1%水準で有意
** : 5%水準で有意



Appendix.

パーソル総合研究所×CAMP共同調査
留学生の就職活動と入社後の実態に関する定量調査

国籍

	該当数	東アジア				東南アジア						南アジア	オセアニア	北米	ヨーロッパ	
		中国	韓国	台湾	香港	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	マレーシア						
全体	500	56.8	31.0	13.2	10.0	2.6	31.2	16.8	6.6	3.4	3.0	1.4	4.8	0.2	3.2	3.8
学生合計	300	50.3	27.7	11.7	9.0	2.0	35.7	22.7	8.0	1.0	3.0	1.0	3.0	0.3	4.7	6.0
社会人合計	200	66.5	36.0	15.5	11.5	3.5	24.5	8.0	4.5	7.0	3.0	2.0	7.5	0.0	1.0	0.5

サンプル内訳 (人数)

	人数
全体	500
■学生合計	300
大学1年生	4
大学2年生	44
大学3年生	64
大学4年生	99
修士1年生	64
修士2年生	25
■社会人合計	200
社会人1年目	46
社会人2年目	56
社会人3年目	55
社会人4年目	33
社会人5年目	10

資本

	該当数	日本企業	外資企業
社会人合計	200	79.5	20.5

社会人_職種

	該当数	間接部門	事務職	営業職	販売職、サービス職	生産・工程・製造	運送・物流	情報技術職	商品開発	専門・技術職	農林水産職	その他
社会人合計	200	31.0	6.0	12.5	5.0	6.5	1.0	25.0	3.0	9.0	0.0	1.0

社会人_業種

	該当数	農業、林業	漁業	鉱業、採石業、砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス事業	サービス業	国家公務、地方公務	それ以外
社会人合計	200	0.0	0.0	1.5	5.0	9.0	1.5	27.0	4.0	9.0	13.5	3.5	5.0	5.0	3.0	1.0	2.5	0.0	7.5	0.0	2.0

学生生活の活動量 項目詳細

大学の勉強

α係数 : 0.779

授業に関する勉強

大学で授業や実験に参加する

自己学習

α係数 : 0.522

勉強のための本を読む

授業とは関係のない勉強を自主的にする

新聞を読む

社会勉強

α係数 : 0.608

起業など、ビジネス活動を行う

小説・一般書などを読む

テレビをみる

人との交流

α係数 : 0.833

外国人の友人と一緒に過ごす

同性の友人と一緒に過ごす

日本人学生の友人と一緒に過ごす

コンパや懇親会などに参加する

異性の友人と一緒に過ごす

クラブ・サークル活動をする

娯楽

α係数 : 0.701

ゲームをする

マンガや雑誌を読む

因子分析

学生生活活動量 18項目7段階尺度で実施

最尤法、プロマックス回転

因子負荷量小さい「インターネットサーフィンをする」「アルバイト」の2項目は除外。

社会人 n=200

就職活動意識（留学生-日本人学生比較）

（%）

順位	就職活動意識	留学生 (414)	日本人 (1079)	GAP
1	友達が知っているような有名な企業に就職したい	72.7	54.4	+18.3
2	仕事を通じて具体的にやりたいことがある	75.1	57.6	+17.5
3	就活マニュアルをよく読むほうだ	66.4	51.9	+14.5
4	入社後も、起業や副業など、積極的に組織の外で働きたい	68.1	53.7	+14.4
5	就活では、ふだん付き合いの無い人からのアドバイスを聞きたい	58.9	52.8	+6.1
6	就活は、なるべく短い時間で取り組むほうが良い	67.6	61.6	+6.0
7	就活では、他の学生との違いを積極的にアピールしたい	73.7	68.8	+4.9
8	就活で、大学のキャリア・センターのサポートは積極的に活用する	64.3	61.6	+2.7
9	就活を始めるのは、早ければ早いほど良い	62.3	63.7	-1.4
10	OG・OB訪問やインターンシップには積極的に参加するべきだ	58.7	60.8	-2.1
11	就活中でも、授業や学業を疎かにするべきではない	71.3	74.0	-2.7
12	時間をかけてでも、希望にあう就職先を見つけたい	69.3	73.4	-4.1
13	業種、職種、企業を絞る前に、はば広く情報を集めるべきだ	66.4	70.5	-4.1
14	就活において、自己分析はとても重要だ	74.9	81.3	-6.4
15	公務員も勤め先の選択肢に入っている	42.5	49.2	-6.7
16	就職する企業は、5年後、10年後のキャリアを見すえて選ぶべきだ	59.9	66.9	-7.0
17	就活中はできるだけ多くの人から話を聞く方が良い	63.8	75.9	-12.1
18	定年まで安定して働ける企業に就職したい	52.7	65.7	-13.0
19	両親・親族に反対されても、自分が行きたい企業に就職するべきだ	57.5	72.3	-14.8
20	大学生活では、さまざまな経験をするほうが大切だ	61.6	78.7	-17.1

※留学生と日本人学生の差が大きい順にランキング化。

※複数回答形式。